

2023 年度修士設計

フィールドスペシフィック・ミュージアム
—高知県香美市土佐山田町における実存的空間回復の起点として—

Field-Specific Museum
-Toward the Recovery of Existential Space in Tosa-Yamada Town, Kami City, Kochi
Prefecture-

2024 年 1 月

高知工科大学大学院
工学研究科 基盤工学専攻
社会システム工学コース 1265057

牧田 貴一

指導教員 渡辺 菊眞
副指導教員 高野 洋平

要旨

フィールドスペシフィック・ミュージアム

—高知県香美市土佐山田町における実存的空間回復の起点として—

社会システム工学コース

1265057 牧田 貴一

本修士設計は、フィールドスペシフィック・ミュージアムの概念の提示と設計を目的とする。

フィールドとは、人が存在する場のことであり、階層的な構造を持つ。具体的には、人が住まう住居、住居が群になることでできる都市、都市を取り巻く景観、景観のその先の彼方への広がりによって感受される地球という階層である。第二次世界大戦前の地域空間は、フィールドの構造を知覚しやすい状況であった。地域固有の住居が都市を形成し、それを取り巻く景観との繋がりには神社や墓地の配置によって感じられた。さらに、聖地からの景観を通して、その先の地球も象徴的に感受できた。

しかし、戦後の高度経済成長期以後のスプロール現象によって、フィールドの階層ごとのまとまりが不明瞭となった。さらには現在見る、都心のスポンジ化現象により都心部の中心的な住居が消失することで、フィールド構造は極めて知覚しづらい状況になっている。

フィールドスペシフィック・ミュージアムとは、対象の地域空間のフィールド構造を知覚させる美術館である。この美術館は、地域空間に空間展示を主とした小美術館を点在させ、小美術館の空間と地域空間を巡り歩くことで、その地域空間のフィールド構造を知覚できるように計画される。

人は地域空間に生きているが、その地域空間がどのようなものであるかを把握しづらいのが現在であり、そこに生きる人は自身の所在が定まらない状態である。人は自身の所在を見失うと十全に生きられないということは、M.ハイデッガー、F.ボルノー、N.シュルツなど多数の哲学者が主張している。フィールドスペシフィック・ミュージアムによりフィールド構造を知覚させ、人が自身の所在を認識できるようにすることが必要であると考えられる。

本修士設計が対象とする地域空間は高知県香美市土佐山田町である。高度経済成長期以前の土佐山田町はフィールド構造を知覚しやすい状況であった。都市としては1文字型の街村であり、北の山地と南の段丘が都市境界をなし、北の山地には神社と墓地が配置され、北山の上の空の広がりを通して地球を感受できた。しかし、現在の土佐山田町はスプロール現象やスポンジ化現象によって、フィールド構造を知覚しづらくなっている。そこで、フィールドスペシフィック・ミュージアムを設計し、土佐山田町が元来有しているフィールド構造を知覚させ、人が地域空間に実存できることをめざす。

Abstract

Field-Specific Museum

-Toward the Recovery of Existential Space in Tosa-Yamada Town, Kami City, Kochi

Prefecture-

Infrastructure System Engineering Course

1265057 Kiichi Makita

The purpose of this design is to show the concept and design field-specific museum.

Field is the place where human can exist. Field has the hierarchical structure. The structure of field is composed of dwelling-stage, city-stage, landscape-stage, and the earth-stage. The earth-stage can be sensed by beyond the landscape-stage.

Before the period of rapid economic growth after WW II, the structure of field in regional space was very easy to perceive. A series of town houses formed the city, The shrines and the cemeteries had linked the city-stage to the landscape-stage. Beyond the landscape, we can feel the earth-stage.

However after WW II, especially after the period of rapid economic growth, we can hardly perceive the structure of field, because of the sprawl phenomenon and sponging phenomenon of the central city.

Field-specific Museum is the museum that makes us perceive the structure of field in the regional space. This museum consists of some small spatial art museums located in the regional space. Visitors can perceive the structure of field by walking around not only small museums but also regional space.

Humans can live in the place where exists under the structure of field. However currently, it is difficult for us to perceive the structure of field in the regional space. Under the situation, it is much difficult to live in the local space, because one cannot live fully if one loses sight of one's own whereabouts. This fact has been asserted by many philosophers, including Martin Heidegger, Otto Friedrich Bollnow, and Christian Norberg-Schulz. So, it seems to be necessary to make people aware of their own whereabouts by creating the field-specific museum.

The regional place for designing field-specific museum is Tosa-Yamada Town, Kami City, Kochi Prefecture. Before the period of rapid economic growth, it was easy to perceive the structure of field in Tosa-Yamada. However, in present times, the structure of field is overshadowed by the sprawl and sponging phenomenon. Therefore, I hope that the field-specific museum makes it clear that we do live in the place supported by the structure of field in Tosa-Yamada.

目次

要旨	1
序章	10
0-1. 修士設計の背景	11
0-2. 修士設計の目的	12
0-3. 既往の設計事例	13
0-4. 修士設計の構成	13
第1章 フィールドスペシフィック・ミュージアムの概要	14
1-1. 建築のコンテクスチュアリズム	15
1-2. サイトスペシフィック・アートとサイトスペシフィック・ミュージアム	15
1-2-1. サイトスペシフィックということ	15
1-2-2. サイトスペシフィック・アートとサイトスペシフィック・ミュージアムの変遷	…15
・アート以前：コズミックアーキテクチュア	15
・ランドアートとアースワーク	17
・芸術祭に見るサイトスペシフィック・アート	18
・サイトスペシフィック・ミュージアム	21
1-3. サイトとフィールド	26
1-3-1. サイトとフィールドの定義	26
1-3-2. フィールドと実存的空間	28
1-4. フィールドスペシフィック・ミュージアム	28
1-4-1. フィールドスペシフィック・ミュージアムの定義	28
1-4-2. フィールドスペシフィック・ミュージアムと実存	28
第2章 高知県香美市土佐山田町というフィールド	29
2-1. 土佐山田町の概要	30
2-1-1. 土佐山田町の地理の概要	30
2-1-2. 土佐山田町の歴史の概要	32
2-1-3. 土佐山田町の空間の概要	33
・高度経済成長期以前の土佐山田町の空間	33
・現在の土佐山田町の空間	35
2-2. 土佐山田町のフィールド構成	37
2-2-1. 土佐山田町のフィールドの各段階と構造	37

・住居の段階と構造	37
・都市の段階と構造	38
・景観の段階と構造	38
・地球の段階と構造	39
2-2-2. 土佐山田町のフィールドの段階の繋がり	40
・住居—都市	40
・都市—景観	40
・景観—地球	41
・住居—都市—景観—地球	42
2-2-3. 現在の土佐山田町のフィールド構成	43
第3章 高知県香美市土佐山田町におけるフィールドスペシフィック・ミュージアムの設計	44
3-1. 設計の指針	45
3-2. フィールドスペシフィック・ミュージアムの全体設計	46
3-2-1.土佐山田町のフィールドの構造図	46
3-2-2.土佐山田町におけるフィールドスペシフィック・ミュージアムの全体計画	47
・土佐山田町におけるフィールドスペシフィック・ミュージアムの配置計画	48
・土佐山田町の順路計画	49
・土佐山田町のフィールド構造の再編ダイアグラム	50
3-3. フィールドスペシフィック・ミュージアム、3つの小美術館設計	54
・町家の活用方針	54
3-3-1. 住居—都市ミュージアムの設計	56
3-3-2. 都市—景観ミュージアムの設計	60
3-3-3. 景観—地球ミュージアムの設計	64
3-4. フィールドスペシフィック・ミュージアムのある情景	68
3-4-1. 順路で展開するフィールドの風景	68
3-4-2. 住居—都市ミュージアムの空間	73
3-4-3. 都市—景観ミュージアムの空間	75
3-4-4. 景観—地球ミュージアムの空間	77
終章	79
4-1. フィールドスペシフィック・ミュージアムの意義	80
4-2. 修士設計の成果と課題	80
主要参考文献	81

図目次

第1章

図 1-1. Stonehenge	16
図 1-2. The Samrat Yantra	16
図 1-3. Sun Tunnels	17
図 1-4. Sun Tunnels と太陽	17
図 1-5. Double Negative	17
図 1-6. 「川はどこへいった」	18
図 1-7. 「森ノウチ」	19
図 1-8. 「河岸段丘」	19
図 1-9. 「廻る音プロジェクト」	20
図 1-10. 「雪アートプロジェクト」	20
図 1-11. 奈義町現代美術館の外観	21
図 1-12. 展示室「太陽」	22
図 1-13. 展示室「月」	22
図 1-14. 展示室「大地」	22
図 1-15. 奈義町現代美術館の配置図	23
図 1-16. 奈義町現代美術館の平面図	23
図 1-17. 豊島美術館の外観	24
図 1-18. 豊島美術館の内観	24
図 1-19. ANDO MUSEUM の外観	24
図 1-20. ANDO MUSEUM の内観 1	25
図 1-21. ANDO MUSEUM の内観 2	25
図 1-22. シュルツによる現代のフィールド	27
図 1-23. シュルツによる古代のフィールド	27
図 1-24. 本設計のフィールド	27

第2章

図 2-1. 土佐山田町の位置	30
図 2-2. 土佐山田町の中心市街地 (2010 年)	31
図 2-3. 3つの用水路 (2010 年)	32
図 2-4. 高度経済成長期以前の土佐山田町の空間構成図 (1947 年)	33
図 2-5. 高度経済成長期以前の土佐山田町の空間構成図 (1947 年) 抽象版	34
図 2-6. 町家 1	34
図 2-7. 町家 2	34

図.2-8.	町家 3	34
図 2-9.	現在の土佐山田町の空間構成図(2010 年)	35
図 2-10.	現在の土佐山田町の空間構成図(2010 年)抽象版	35
図 2-11.	空地化 1	36
図 2-12.	空地化 2	36
図 2-13.	駐車場化	36
図 2-14.	住居の段階の構成図	37
図 2-15.	都市の段階の構成図	38
図 2-16.	景観の段階の構成図	38
図 2-17.	地球の段階の構成図	39
図 2-18.	住居—都市の構成図	40
図 2-19.	都市—景観の構成図	40
図 2-20.	景観—地球の構成図	41
図 2-21.	高度経済成長期以前の土佐山田町の風景イメージ 1	41
図 2-22.	高度経済成長期以前の土佐山田町の風景イメージ 2	41
図 2-23.	住居—都市—景観—地球の構成図	42
図 2-24.	現在の土佐山田町のフィールド構造図	43

第 3 章

図 3-1.	土佐山田町のフィールド構造図	46
図 3-2.	配置計画図	48
図 3-3.	順路計画図	49
図 3-4.	「住居—都市ミュージアム」の配置計画	50
図 3-5.	「都市—景観ミュージアム」の配置計画	51
図 3-6.	「景観—地球ミュージアム」の配置計画	52
図 3-7.	土佐山田の町家の構成	54
図 3-8.	土佐山田の町家の活用 1	54
図 3-9.	土佐山田の町家の活用 2	55
図 3-10.	土佐山田の町家の活用 3	55
図 3-11.	土佐山田の町家の活用 4	55
図 3-12.	「住居—都市ミュージアム」の平面計画	57
図 3-13.	「住居—都市ミュージアム」の断面計画	57
図 3-14.	「住居—都市ミュージアム」の順路計画	58
図 3-15.	「住居—都市ミュージアム」の配置図	58
図 3-16.	「住居—都市ミュージアム」の平面図	59
図 3-17.	「住居—都市ミュージアム」の断面図	59

図 3-18.	「都市—景観ミュージアム」の平面計画	61
図 3-19.	「都市—景観ミュージアム」の断面計画	61
図 3-20.	「都市—景観ミュージアム」の順路計画	62
図 3-21.	「都市—景観ミュージアム」の配置図	62
図 3-22.	「都市—景観ミュージアム」の平面図	63
図 3-23.	「都市—景観ミュージアム」の断面図	63
図 3-24.	「景観—地球ミュージアム」の平面計画	65
図 3-25.	「景観—地球ミュージアム」の断面計画	65
図 3-26.	「景観—地球ミュージアム」の順路計画	66
図 3-27.	「景観—地球ミュージアム」の配置図	66
図 3-28.	「景観—地球ミュージアム」の平面図	67
図 3-29.	「景観—地球ミュージアム」の断面図	67
図 3-30.	順路とパース位置のプロット	68
図 3-31.	「住居—都市ミュージアム」の外観	69
図 3-32.	「住居—都市ミュージアム」の内観 1	69
図 3-33.	「住居—都市ミュージアム」の内観 2	69
図 3-34.	「住居—都市ミュージアム」の内観 3	69
図 3-35.	ミチの風景	70
図 3-36.	「都市—景観ミュージアム」の外観	70
図 3-37.	「都市—景観ミュージアム」の内観 1	70
図 3-38.	「都市—景観ミュージアム」の内観 2	70
図 3-39.	イノリミチの風景 1	71
図 3-40.	イノリミチの風景 2	71
図 3-41.	八王子宮と空の風景	71
図 3-42.	イノリミの風景 3	71
図 3-43.	キョノイノリミチの風景 1	72
図 3-44.	「景観—地球ミュージアム」の外観	72
図 3-45.	「景観—地球ミュージアム」の内観 1	72
図 3-46.	高知南方の地平線	72
図 3-47.	「住居—都市ミュージアム」のパース位置と順路	73
図 3-48.	「住居—都市ミュージアム」のパース①	74
図 3-49.	「住居—都市ミュージアム」のパース②	74
図 3-50.	「住居—都市ミュージアム」のパース③	74
図 3-51.	「住居—都市ミュージアム」のパース④	74
図 3-52.	「都市—景観ミュージアム」のパース位置と順路	75
図 3-53.	「都市—景観ミュージアム」のパース①	76

図 3-54.	「都市—景観ミュージアム」のパース②	76
図 3-55.	「都市—景観ミュージアム」のパース③	76
図 3-56.	「景観—地球ミュージアム」のパース位置と順路	77
図 3-57.	「景観—地球ミュージアム」のパース①	78
図 3-58.	「景観—地球ミュージアム」の②	78

表目次

第1章

表 1-1. 奈義町現代美術館とフィールド構造	22
-------------------------	----

第2章

表 2-1. 住居—都市—景観—地球の構成表	42
表 2-2. 現在の土佐山田町のフィールド構造表	43

第3章

表 3-1. 土佐山田町のフィールド構造表	46
表 3-2. 「住居—都市ミュージアム」とフィールド構造	50
表 3-3. 「都市—景観ミュージアム」とフィールド構造	51
表 3-4. 「八王子宮」とフィールド構造	52
表 3-5. 「景観—地球ミュージアム」とフィールド構造	52

序章

0-1. 修士設計の背景

地域空間は自然地形とその地での生業に密接に結びついて形成される。伝統的な地域空間の一つに街村がある。街村は自然地形に大きな影響を受けて引かれた街道に沿うように居住域が発展し、街道において生業が盛んに行われる。また、地域空間を地形に結び付けるために神社や墓地が配置される。神社や墓地は、地域空間を形成する上で大きく影響する地形の近傍に配置され、参道によって居住域と接続される。このような繋がりを形成することにより、居住域とそれを取り巻く地形の繋がり、さらには地形のその先の彼方への広がりによって感受される地球を知覚しやすくなっていた。

しかし、高度経済成長期以降のスプロール現象やスポンジ化現象によって、地域空間は居住域とそれを取り巻く地形の繋がり、さらには地形のその先の彼方への広がりによって感受される地球を知覚しづらい状況になっている。スプロール現象によって領域のまとまりが不明瞭になり、その地に固有の地域空間が希薄になり、スポンジ化現象によってかつての中心的な居住域が空洞化し、その地域空間に固有の居住域も失われている。

人は地域空間に生きているが、その地域空間がどのようなものであるかを把握しづらいのが現在であり、そこに生きる人は自身の所在が定まらない状態である。人は自身の所在を見失うと十全に生きられないということは、M.ハイデッガー、F.ボルノー、N.シュルツなど多数の哲学者が主張している。このような現状から、地域空間が元来有している、居住域とそれを取り巻く地形の繋がり、さらには地形のその先の彼方への広がりによって感受される地球という構造を知覚させ、その地において自身の所在を認識できるようにする必要があると考える。そのためには、地域空間が元来有している構造を現代において再現することが有効であるが、同一な状況を生み出すことは不可能であるため、建築空間によって知覚させるを行う。

本修士設計では高知県香美市土佐山田町を対象に、地域空間が元来有している構造を知覚させ、その地において自身の所在を認識させる建築を設計する。このような建築を本設計ではフィールドスペシフィック・ミュージアムと呼称する。土佐山田町は農村であったが、移転に伴い新たに計画された街村が現在の土佐山田町の中心地である。現在の中心地である街村は、居住域は北方の山地、南方の河岸段丘に挟まれるようにして東西に伸びるように発展している。神社や墓地は山地に位置づけられており、居住域と神社や墓地は参道によって接続されている。かつての土佐山田町はその地に固有の地域空間が形成されていたが、現在は高度経済成長期以降のスプロール現象やスポンジ化現象によってそれが希薄になっている。

本設計は、敷地や周辺環境などの街区の形状や風景、歴史や文化などのコンテクストを考慮するコンテクスチュアリズムの建築設計に位置づけられる。21世紀において建築設計ではコンテクストの概念が多用されており、歴史保存やリノベーション、地域再生が重要なテーマとなっている中で、本提案はこの傾向に則った建築設計である。ただし、本設計では人の所在を認識させることに力点を置いていることに独自性があるといえる。

0-2. 修士設計の目的

本修士設計の目的は、フィールドスペシフィック・ミュージアムの概念の提示と設計である。

フィールドとは、人が存在する場のことであり、階層的な構造を持つ。具体的には、人が住まう住居、住居が群になることでできる都市、都市を取り巻く景観、景観のその先の彼方への広がりによって感受される地球という階層である。第二次世界大戦前の地域空間は、フィールドの構造を知覚しやすい状況であった。地域固有の住居が都市を形成し、それを取り巻く景観との繋がりには神社や墓地の配置によって感じられた。さらに、聖地からの景観を通して、その先の地球も象徴的に感受できた。

しかし、戦後の高度経済成長期以後のスプロール現象によって、フィールドの階層ごとのまとまりが不明瞭となった。さらには現在見る、都心のスポンジ化現象により都心部の中心的な住居が消失することで、フィールド構造は極めて知覚しづらい状況になっている。

フィールドスペシフィック・ミュージアムとは、対象の地域空間のフィールド構造を知覚させる美術館である。この美術館は、地域空間に空間展示を主とした小美術館を点在させ、小美術館の空間と地域空間を巡り歩くことで、その地域空間のフィールド構造を知覚できるように計画される。

本修士設計が対象とする地域空間は高知県香美市土佐山田町である。高度経済成長期以前の土佐山田町はフィールド構造を知覚しやすい状況であった。都市としては1文字型の街村であり、北の山地と南の段丘が都市境界をなし、北の山地には神社と墓地が配置され、北山の上の空の広がりを通して地球を感受できた。しかし、現在の土佐山田町はスプロール現象やスポンジ化現象によって、フィールド構造を知覚しづらくなっている。そこで、フィールドスペシフィック・ミュージアムを設計し、土佐山田町が元来有しているフィールド構造を知覚させ、人が地域空間に実存できることをめざす。

0-3. 既往の設計事例

本修士設計では、普段は知覚しづらい場の特質を浮かび上がらせる美術館の設計を行う。そこで参考となる美術館の設計事例として、奈義町現代美術館、豊島美術館、ANDO MUSEUM の3つの美術館を挙げる。

奈義町現代美術館は、美術館の空間とアーティストの作品が一体となっており、その空間は奈義町固有の軸線に沿って建つように設計されている。

豊島美術館は、美術館の空間自体が展示作品のようになっており、その空間は周囲の風、音、光を取り込み、自然と建物が呼応するように設計されている。

ANDO MUSEUM は、直島・本村地区にある伝統的な民家を改築し、その空間自体が展示作品のようになっており、建築家の安藤忠雄のこれまでの活動の資料や直島の歴史を伝える写真も展示されている。

これら3つの美術館に共通しているのは、美術館の空間を通じて場の特質を知覚させる空間展示がされていることである。特に奈義町現代美術館は、フィールドの幾つかの段階を知覚できるように設計されており、本設計において有効な設計事例になると考えられる。また、ANDO MUSEUM は空間展示に加え、地域に関する資料展示、伝統的民家の活用が見られる。資料展示により空間展示だけでは知り得ない情報を補い、空間展示の体験をより豊かにすることができる。伝統的民家の活用は、その地域の住空間を体験することができる。フィールドの住居の段階の知覚には、住空間の体験が必須である。そこで、本設計では、空間展示、資料展示、伝統的民家の活用を踏襲する。

本修士設計では、地域空間のフィールドの各段階とその繋がり全体の構造を知覚させることが目指される。フィールドの知覚を促す美術館の事例は見られるが、フィールドの全体の構造を知覚させる美術館は見られないため、本修士設計は独自性があるといえる。

0-4. 修士設計の構成

修士設計の構成は、以下の通りである。

序章では、設計の背景、設計の目的、既往の設計事例、修士設計の構成について記す。

第1章では、フィールドスペシフィック・ミュージアムの概要について記す。

第2章では、高知県香美市土佐山田町というフィールドについて記す。

第3章では、高知県香美市土佐山田町におけるフィールドスペシフィック・ミュージアムの設計について記す。

終章では、フィールドスペシフィック・ミュージアムの意義、修士設計の成果と課題について記す。

第1章 フィールドスペシフィック・ミュージアムの概要

1-1. 建築のコンテクスチュアリズム

コンテクスチュアリズムとは、建築設計において敷地や周辺環境などの街区の形状や風景、歴史や文化などのコンテクストを重視する設計姿勢や設計思想のことである。

1950年に建築家ロバート・ヴェンチューリがコンテクストの概念を建築に導入され、コンテクスチュアリズムの語自体は、スチュアート・コーエンとスティーヴン・ハートにより1965年頃に考案された。

コンテクスチュアリズムはポストモダニズムの中に位置付けられ、ポストモダニズム建築への批判とともに衰退したが、21世紀になった現在の建築設計でもコンテクストの概念は多用されている。歴史保存やリノベーション、地域再生が重要なテーマとなっている現代においてその重要度は高まっている。

1-2. サイトスペシフィック・アートとサイトスペシフィック・ミュージアム

1-2-1. サイトスペシフィックということ

サイトスペシフィックとは、特定の場所に帰属する作品や置かれる場所の特性を活かした作品、あるいはその性質や方法を指す。

1-2-2. サイトスペシフィック・アートとサイトスペシフィック・ミュージアムの変遷

サイトスペシフィックに関する活動は非常に長い歴史がある。紀元前から近世にかけて、天体の巡りを知覚する建築である、コズミックアーキテクチャが存在する。現代の1960年代半ばには、アート活動としてランドアート、アースワークが見られる。現在はアート活動として芸術祭が盛んに開催されている。

また、美術館においてもサイトスペシフィックなものが見られる。美術館は元来ホワイトキューブであり、周辺環境を一切遮断していたが、脱ホワイトキューブの動きが生まれ周辺環境を取り込んだサイトスペシフィック・ミュージアムが見られるようになる。

以下に事例を示すと共に、それらがフィールドの構造とどのように関わっているのかを見ていく。第1章2節で示したように、フィールドの構造は、住居、都市、景観、地球、という4つの段階から構成されている。

・アート以前：コズミックアーキテクチャ

コズミックアーキテクチャとは、天体の巡りを知覚する建築であり、世界各地で見られる。コズミックアーキテクチャの事例として、Stonehenge、The Samrat Yantraを紹介する。

Stonehengeは紀元前2000年以上前から存在するイギリスの古代遺跡である。この遺跡は礼拝場や天文台であったことが推定されている。Stonehengeのすべての石や穴の配置は、

太陽と月の観測と関係を持っており、暦の記録だけではなく、至点や分点、満月の周期を正確に記録することで、人々の恐れていた月食や太陽の日食などを予測することができる。このように、Stonehenge は礼拝の場としての機能に加え、天文学的に天体を観測する装置として存在し、彼方に広がる世界に対して意識を誘導している。フィールドの段階においては、地球の段階の知覚を促している。



図 1-1. Stonehenge

The Samrat Yantra はインド、ジャイプールの天体観測建築群ジャンタル・マンタルの 1 つとして建設された。The Samrat Yantra は日時計の機能を持っており赤道と地球の軸と関係を持つことでその役割を可能にしている。The Samrat Yantra は南北軸上に設置され、天の北極を指す直線、つまり地軸に平行な線と、それに垂直に立っている半円で構成されている。この直線は、この建築の地理的な緯度の勾配の傾斜にすることで地軸と並行な辺となる。太陽が規則性をもって巡るとき、日時計として斜辺の影が半円上に同じ周期で巡ることで天体の巡りを観測することで、彼方に広がる世界へ意識を誘導している。フィールドの段階においては、地球の段階の知覚を促している。

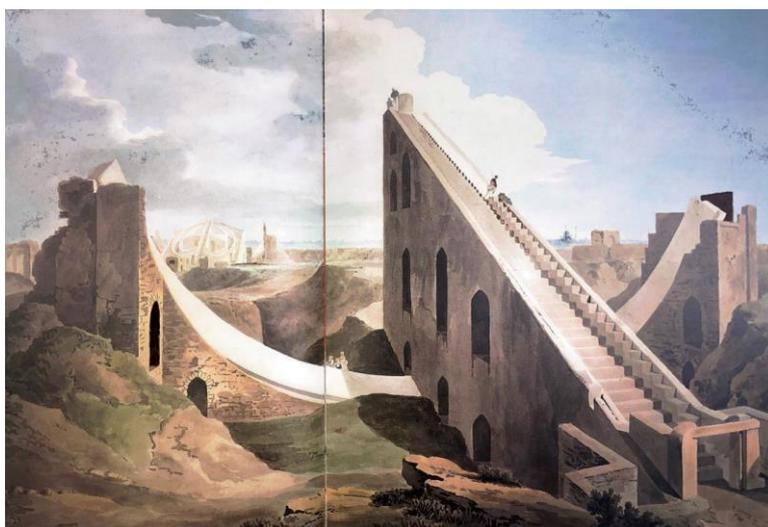


図 1-2. The Samrat Yantra

・ランドアートとアースワーク

ランドアートやアースワークとは、屋外で土や砂などの自然の物質を用い、特に初期の頃においては、土木工事に匹敵する大規模な制作プロセスを経た美術作品のことである。大地が支持体であり同時に素材となることにおいて、作品と場との直接的な結合がなされる。作品の事例では、Sun Tunnels、Double Negative を紹介する。

Sun Tunnels は、砂漠に 4 本のコンクリート製トンネルを X 時に配置しており、夏至・冬至の太陽の昇降の角度に合わせている。またトンネル内部にある複数の穴は、星座と対応するように開けられており、太陽や月のサイクルとともに変化する広大な風景の中にセットされ、地平線の先の彼方への広がりへ意識を誘導している。フィールドの段階においては、地球の段階の知覚を促している。



図 1-3. Sun Tunnels



図 1-4. Sun Tunnels と太陽

Double Negative は、幅 9 メートル、深さ 15 メートル、長さ 457 メートルの長い溝で構成されており、244,000 トンの岩石を移動させて作られた。2つの溝が自然の溪谷の両側にまたがっている風景により、大地の底へ続いていく彼方への広がりへ意識を誘導している。フィールドの段階においては、景観、地球の 2つの段階、また双方の段階が繋がっていることの知覚を促している。



図 1-5. Double Negative

・芸術祭に見るサイトスペシフィック・アート

芸術祭とは、世界各地で多様な形で行われる芸術の祭典である。その中でも有名な、新潟県十日町市および津南町で開催される世界最大規模の国際芸術祭、大地の芸術祭 越後妻有アートトリエンナーレを紹介する。

大地の芸術祭は、新潟県十日町地域の約 762 平方キロメートルの広大な土地を美術館に見立て、アーティストと地域住民とが協働し地域に根ざした作品を制作、継続的な地域展望を拓く活動を目的とする芸術祭である。それぞれのアーティストの関心によりつくられるサイトスペシフィック・アートは、普段は関心がいかないような場の特質を浮かび上がらせる。作品の事例として、「川はどこへいった」「森ノウチ」「河岸段丘」「かまぼこフェイス」「雪アートプロジェクト」を紹介する。

「川はどこへいった」は、かつて蛇行していた川は、ダム開発やコンクリート護岸によって姿を変え、水量や生態系に大きな影響を被って現在に至っていることを表現している。昔の信濃川の川筋が全長 3.5km にわたって、約 600 本の黄色い旗により再現された。これにより、地域の都市構造の変容とそれを取り巻く景観へ意識を誘導している。フィールドの段階においては、都市、景観の 2 つの段階の知覚、また双方の段階の繋がりを知覚を促している。



図 1-6. 「川はどこへいった」

「森ノウチ」は、鑑賞者が大地と空のつながりを感じながら、涼んだり休憩したりできる空間を提供している。十日町の諏訪神社の奥、山の尾根にある緑豊かな公園「ライオンズの森」に位置しており、直径約 6m×高さ 2~3m のパヴィリオンを制作し、地域の景観のその先にある彼方への広がり意識を誘導している。フィールドの段階においては、地球の段階の知覚を促している。



図 1-7. 「森ノウチ」

「河岸段丘」は、河岸段丘のテラスから信濃川を臨む、山道の休憩所である。住民とのワークショップを繰り返し、地域の条件を活かした小さな空間がつくられ、地域を取り巻く景観へ意識を誘導している。フィールドの段階においては、景観の段階の知覚を促している。



図 1-8. 「河岸段丘」

「廻る音プロジェクト」は、松代町商店街の道路の両側にほぼ等間隔に白い木箱に入った小型 CD プレーヤーを 10 台設置し、そこから子どもたちの遊ぶ声やほくほく線の走行音、生き物の鳴声などを流した。その音は隣接するスピーカーへと移動し、あたかも音が商店街を廻り、走り回るようにした。子どもたちの遊ぶ声などが商店街全体に溢れることで、かつて栄えていた都市へ意識を誘導している。フィールドの段階においては、都市の段階の知覚を促している。



図 1-9. 「廻る音プロジェクト」

「雪アートプロジェクト」は、古民家を再生し、雪をテーマとする常設ギャラリーで、「雪アート」や「雪のギャラリーロード」の記録を写真展示している。これにより、地域の伝統的な住居の空間へ意識を誘導し、地域の活動を情報として知ることができる。フィールドの段階においては、住居の段階の知覚を促している。



図 1-10. 「雪アートプロジェクト」

コズミックアーキテクチャからサイトスペシフィック・アートまでの事例において、共通に見られることは、フィールドの階層的な構造に対して、部分的な知覚に止まっていることである。コズミックアーキテクチャやサイトスペシフィック・アートは、フィールドの全体構造を知覚させることを目的として制作されていないといえる。

・サイトスペシフィック・ミュージアム

サイトスペシフィック・ミュージアムとは、普段は知覚しづらい場の特質を浮かび上がらせる美術館のことである。サイトスペシフィック・ミュージアムの事例として、奈義町現代美術館、豊島美術館、ANDO MUSEUM を紹介する。

奈義町現代美術館は、1994年に磯崎新による設計で建築された。空間そのものが作品となるように、3組のアーティストの作品と建築が一体となって体験できる。日本における体感型美術館の先駆けとして位置づけられる。奈義町の雄大な自然を作品の一部として見せる空間が特徴的で、3つの展示室は「大地」「月」「太陽」と名づけられ、それぞれ奈義町固有の軸線に沿って建つ。

この美術館は、空間を通じて場の特質を知覚させる空間展示がされている。また、表 1-1. にあるように、フィールドの幾つかの段階の知覚を促すように設計されており、本設計の設計事例として非常に有効であるが、フィールドの全体構造を包括的に知覚させるものではないと考える。奈義町現代美術館は、美術館の敷地内のみでの空間体験であり、領域的に広がっている地域空間のフィールド構造を美術館の敷地内のみで知覚するのは難しい。また、住居の段階の知覚がされていないので、フィールド構造を包括的に知覚するための美術館ではないといえる。

そこで、地域空間のフィールド構造の知覚のためには、住居の段階の知覚は勿論のこと、地域空間のフィールド構造の根幹となる幾つかの要所においてそれを知覚させることで、フィールドの全体構造を知覚させる必要があると考える。



図 1-11. 奈義町現代美術館の外観



図 1-12. 展示室「太陽」

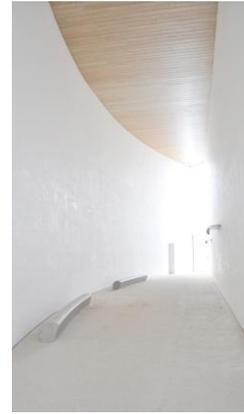


図 1-13. 展示室「月」



図 1-14. 展示室「大地」

フィールドの段階	知覚空間
住居	—
都市	奈義町立図書館：前面道路軸（現在都市）
景観	展示室「大地」：那岐山頂軸
地球	展示室「太陽」：南北軸 展示室「月」：中秋の名月 22:00 の方向軸

表 1-1. 奈義町現代美術館とフィールド構造

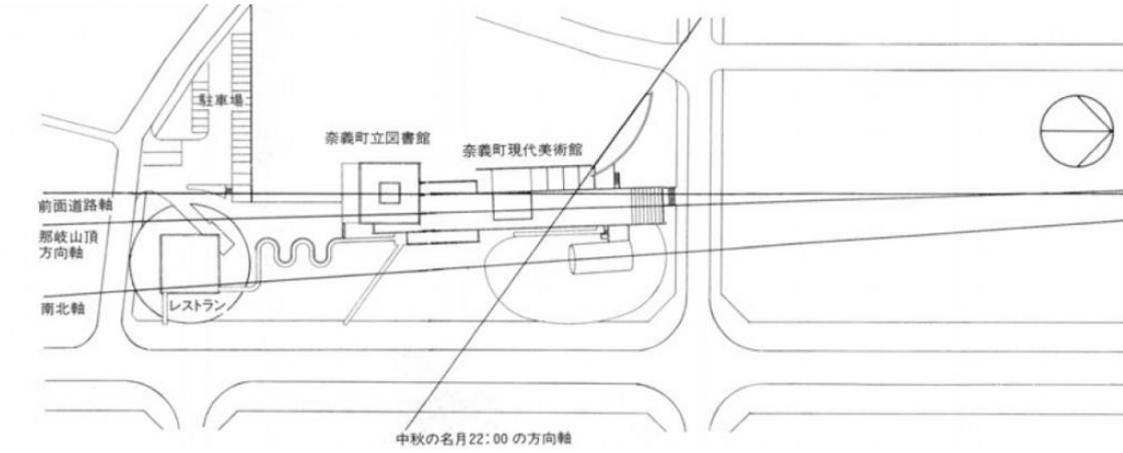


図 1-15. 奈義町現代美術館の配置図

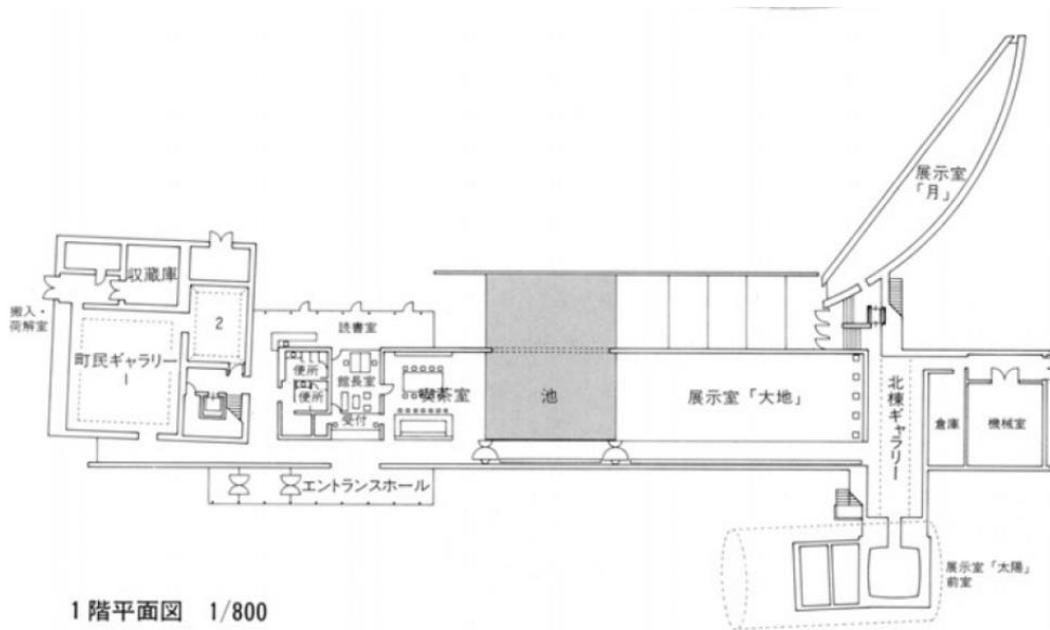


図 1-16. 奈義町現代美術館の平面図

豊島美術館は、瀬戸内海を望む豊島唐櫃の小高い丘に建設されるアーティスト・内藤礼と建築家・西沢立衛によって設計された。天井にある2箇所の開口部から、周囲の風、音、光を内部に直接取り込み、自然と建物が呼応する有機的な空間になっている。

この美術館は、空間を通じて場の特質を知覚させる空間展示がされている。美術館は起伏に富んだ地形に立地しており、内部空間は彼方へ広がる空を見る空間がつけられている。これにより、フィールドの段階においては、景観、地球の2つの段階の知覚を促している。



図 1-17. 豊島美術館の外観



図 1-18. 豊島美術館の内観

ANDO MUSEUM は、建築家の安藤忠雄が直島・本村地区にある築約 100 年の木造民家を改築し、2013 年に開館。古民家を保存し、現代建築と融合させる試みとして、安藤のこれまでの活動を紹介する建築写真や模型やスケッチ、また直島の歴史を伝える写真などが展示されている。館内は小規模でありながら、過去と現在、木とコンクリート、光と闇、対立した要素が重なり合う空間が広がる。

この美術館は、空間を通じて場の特質を知覚させる空間展示がされている。また、地域に関する資料展示、伝統的民家の活用が見られる。資料展示により空間展示だけでは知り得ない情報を補い、空間展示の体験をより豊かにすることができる。伝統的民家の活用は、その地域の住空間を体験することができる。フィールドの住居の段階の知覚には、住空間の体験が必須である。



図 1-19. ANDO MUSEUM の外観



図 1-20. ANDO MUSEUM の内観 1



図 1-21. ANDO MUSEUM の内観 2

これら 3 つの美術館に共通しているのは、美術館の空間を通じて場の特質を知覚させる空間展示がされていることである。特に奈義町現代美術館は、本設計において有効な設計事例になるが、住居の段階の知覚、地域空間のフィールド構造の根幹となる幾つかの要所においてそれを知覚させることが必要である。また、ANDO MUSEUM は空間展示に加え、資料展示がされており、地域の伝統的民家を活用することで住居の段階の知覚を促している。

そこで本修士設計では、空間展示、資料展示、伝統的民家の活用を踏襲し、地域空間のフィールド構造の根幹となる幾つかの要所においてそれを知覚させる美術館を計画する。

1-3. サイトとフィールド

1-3-1. サイトとフィールドの定義

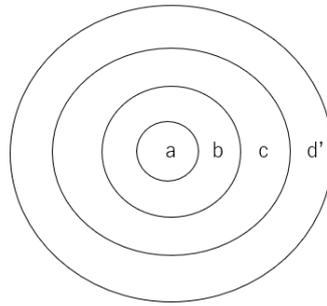
サイトとは、特定の敷地、用地を指す。サイトスペシフィック・アートにおけるサイトは、それが立地する敷地、用地、それを巡る状況である。

フィールドとは、段階と構造を有する場であり、サイトを内包するものである。フィールドの段階と構造は、ノルベルク・シュルツ著「実存・空間・建築」に記されている。それによると、フィールドの段階(図 1-22.1)は、小さい段階から順に、住居の段階、都市の段階、景観の段階、地理の段階の4つの段階で構成され、これらが結び付き全体を構成しているとされている。住居の段階より小さなものとして器物の段階があるが、これはフィールドを成していないため、ここでは除いている。このようなものが現代におけるフィールドの段階であるが、古代のフィールドの段階(図 1-22.2)は、最大の階層が地理の段階ではなく宇宙論の段階であった。フィールドの中心はいずれも住居の段階である。フィールドの構造(図 1-23)は、中心と場所から方向と通路が延長し、区域と領域が中心と場所を取り巻いている。垂直軸は中心と場所にある。このようにフィールドの構造は構成されている。

地理の段階と宇宙論の段階は、視認の範囲を超えた領域を対象としており、双方の段階はその領域の捉え方に差異がある。地理の段階では、その領域を情報として認識している段階である。宇宙論の段階では、その領域を位置している場において、彼方への広がりとして体感している段階である。

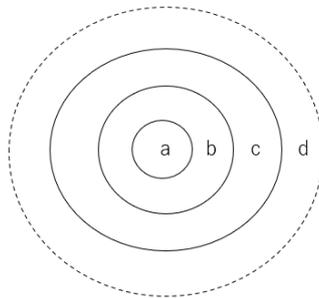
視認の範囲を超えた領域に対して、現代においても宇宙論のように彼方への広がりとして体感し得ることは、前節の事例からいえる。そこで、宇宙論の段階が地理の段階に置き換わったのではなく、双方の段階が融合した段階が、現代におけるフィールドの最大の段階であると考えられる。また、フィールドの構造における垂直軸は、宇宙論の段階が有しており、地理の段階は有していない(図 1-24.0)。

そこで本設計では、フィールドの最大の段階として、地理の段階と宇宙論の段階を融合した、地球の段階を新たに設定する。本設計におけるフィールドの段階(図 1-24.1)は、住居の段階、都市の段階、景観の段階、地球の段階とする。また、フィールドの構造(図 1-24.2)は段階を介して認識される。住居の段階を中心として、段階的に外延して地球の段階まで知覚できたときに、垂直軸が発生する。



- a. 住居の段階
- b. 都市の段階
- c. 景観の段階
- d. 地理の段階

図 1-22.1 シュルツによる現代のフィールドの段階



- a. 住居の段階
- b. 都市の段階
- c. 景観の段階
- d'. 宇宙論の段階

図 1-22.2 シュルツによる古代のフィールドの段階

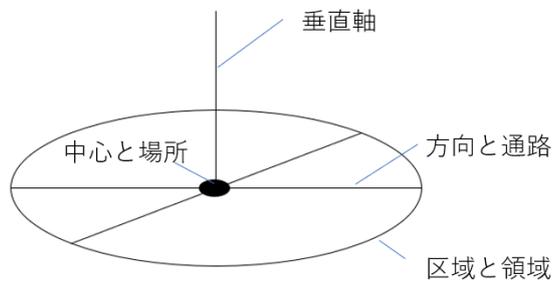


図 1-23 シュルツによるフィールドの構造

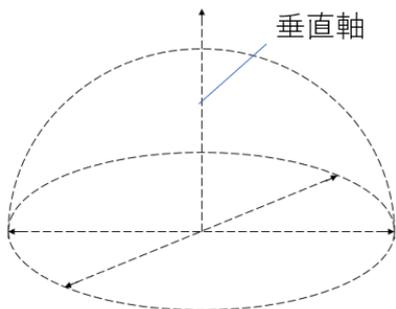
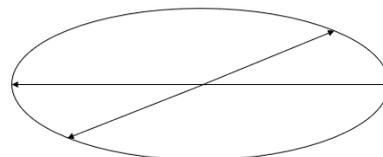
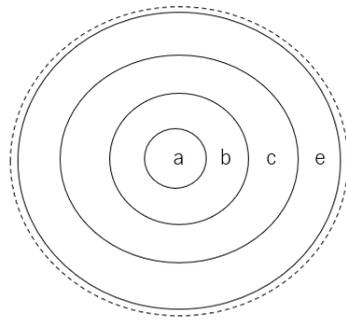


図 1-24.0 宇宙論の段階 (垂直軸あり)



地理の段階 (垂直軸なし)



- a. 住居の段階
- b. 都市の段階
- c. 景観の段階
- e. 地球の段階 (d+d')

図 1-24. 本設計におけるフィールドの段階

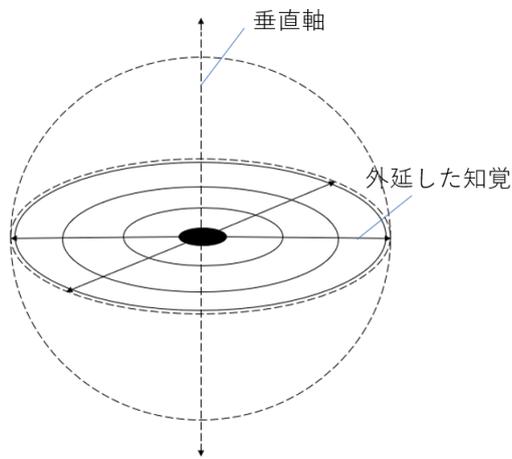


図 1-24.2 本設計におけるフィールドの構造

1-3-2. フィールドと実存的空間

フィールドは階層的な構造を有し、住居、都市、景観、地球という段階で構成されている。このフィールドの階層的な構造は、人がある領域のまとまりに意味を見いだすことで生まれる。また、フィールドの段階の住居、都市、一部の景観は、人によって創造され作り変えられてきものである。

実存的空間とは、人が生きる空間であり、人が意味を見だし、人間活動によって常に創造され作り変えられている空間である。

これらから、フィールドとは実存的空間であり、実存的空間はフィールドの階層的な構造で構成されているといえる。また、人が十全に生きるためには実存的空間を明瞭に知覚する必要があると、M.ハイデッガー、F.ボルノー、N.シュルツなど多数の哲学者が主張している。

1-4. フィールドスペシフィック・ミュージアム

1-4-1. フィールドスペシフィック・ミュージアムの定義

フィールドスペシフィック・ミュージアムとは、対象の地域空間のフィールド構造を知覚させる美術館である。この美術館は、空間展示を主とした小美術館を、地域空間のフィールド構造の根幹となる幾つかの要所に点在させ、小美術館の空間と地域空間を巡り歩くことで、その地域空間全体のフィールド構造を知覚できるように計画する。

1-4-2. フィールドスペシフィック・ミュージアムと実存

人はフィールドという実存的空間に生きており、それは階層的な構造を有している。フィールドの階層的な構造を明瞭に知覚することは、実存的空間を明瞭に知覚することでもある。

現在のフィールドは、高度経済成長期以降のスプロール現象やスポンジ化現象によって、フィールド構造を知覚しづらくなり、それにより自身の所在も不明瞭になっている。つまり実存的空間が喪失している。実存的空間が喪失してしまうと人は十全に生きられないという事は、M.ハイデッガー、F.ボルノー、N.シュルツなど多数の哲学者が主張している。

フィールドスペシフィック・ミュージアムとは、フィールド構造を知覚させ、そのフィールドにおいて人が自身の所在を認識することで、実存的空間の回復を目指す起点となる美術館である。

第2章 高知県香美市土佐山田町というフィールド

2-1. 土佐山田町の概要

本章では、高知県香美市土佐山田町の広域の概要とともに、本設計の対象である土佐山田町の西本町や東本町のある中心市街地の概要を主に示す。

2-1-1. 土佐山田町の地理の概要

高知県香美市土佐山田町は、高知市の東方 18 キロ、香長平野の北端に位置し、東に香北町、西に南国市、南に野市町、北に大豊町と接している。

地形的には、土佐山田町地域の北方の山嶺と本地域南方の分水嶺との間に吉野川支流の北流する穴内川の流域があり、同分水嶺以南には、物部川、新改川などが太平洋に注いでいる。物部川に沿う山間部には河岸段丘が発達し、また物部川下流の神母ノ木付近から土佐山田、後免、日章及び野市付近にかけての平野部には物部川の広大な扇状地が発達している。

土佐山田町の中心市街地は北方の 2 つの小丘陵と南方の河岸段丘に挟まれる平野部に立地する。



図 2-1. 土佐山田町の位置

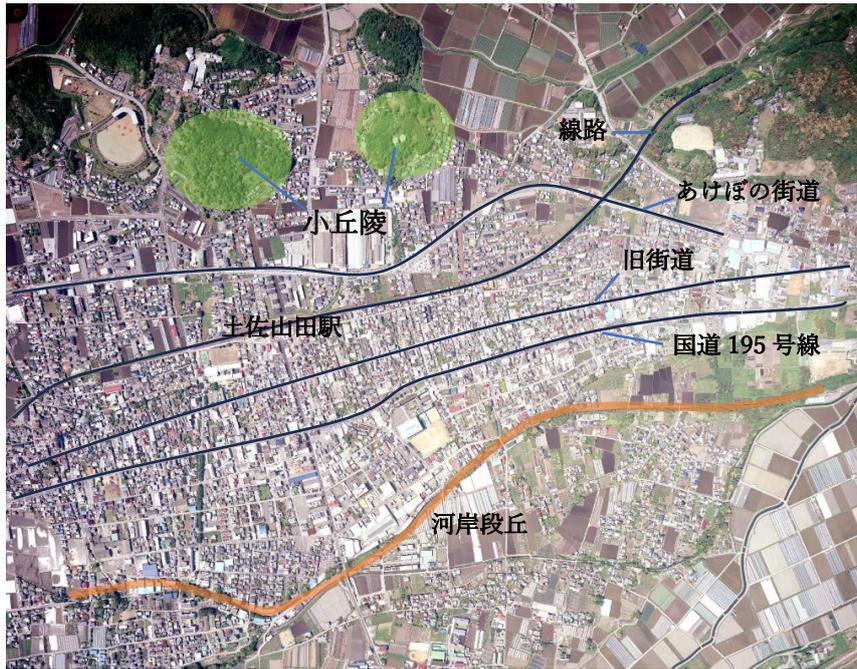


図 2-2. 土佐山田町の中心市街地 (2010 年)

2-1-2. 土佐山田町の歴史の概要

用水路

土佐山田町地域には物部川本流を利用するために、野中兼山によって治水土木事業が行われた。現在の香美市においては、山田堰の建設により物部川の水を治め、上井川、中井川、舟入川の 3 つの用水路が完備された。中心市街地は上井川から融水することで生活用水を供給しており、上井川は市街地南方の河岸段丘沿いに通っている。山田堰と 3 つの用水路の完成により、殖産興業と民生向上に大きな役割を果たした。



図 2-3. 3 つの用水路 (2010 年)

信仰

土佐山田町は八王子宮において氏神を祀っている。八王子宮の氏子は市街地及び近くの農村部など広域に渡る。現在の土佐山田町の中心地は市街地であるが、江戸初期の中心地は古町にあった。八王子宮は古町の稲荷神社に置かれていたが、中井川の開削によって川床が宮居に障ることと中心地の移転に伴い、1640 年に現在の位置に移転遷座した。

生業

土佐山田町は古くから物部川流域及び嶺北地方の物資の集散地として発展してきた。西町は主に嶺北方面との取引が盛んで、東町は主に物部川上流香北、物部村方面との取引が盛んに行われた。これらの取引は現在の旧街道を主要な交通路とし、旧街道沿いにて行われていた。

また、明治初期の高知県は養蚕業に取り組み、土佐山田町は県下蚕種製造業の中心的役割を果たすようになった。土佐山田町の養蚕業は明治の中頃から盛んになり、市街地の周辺一帯に桑園があったが、昭和 5 年の世界的不況時代をピークに次第に降下に転じ、戦後は食糧不足のため桑園は芋畑、麦畑と化し、養蚕は衰えていった。

2-1-3. 土佐山田町の空間の概要

本設計の対象領域である、土佐山田町の中心市街地の空間的特質について、主に地形、道、神社や墓地などの聖地、住居に注目して示す。

・高度経済成長期以前の土佐山田町の空間

高度経済成長以前の土佐山田町の地域空間は、地域固有の民家、それによってできる居住域、居住域と地形の結び付き、さらには地形のその先の彼方への広がりを知覚しやすい状況であった。

地形は、北方に山地、南方に河岸段丘が見られる。街道は、山地と河岸段丘に挟まれるようにして東西方向に伸びていき、居住域も東西方向に伸びている。街道や居住域と直交して北方へ伸びる道は、神社と墓地への参道が見られる。神社と墓地は北方にある小丘陵にそれぞれ配置されている。居住域の住居には町家型のものが見られる。

土佐山田町の中心市街地は、2つの小丘陵を挟む南北軸に対して線対称に近い構成になっている。

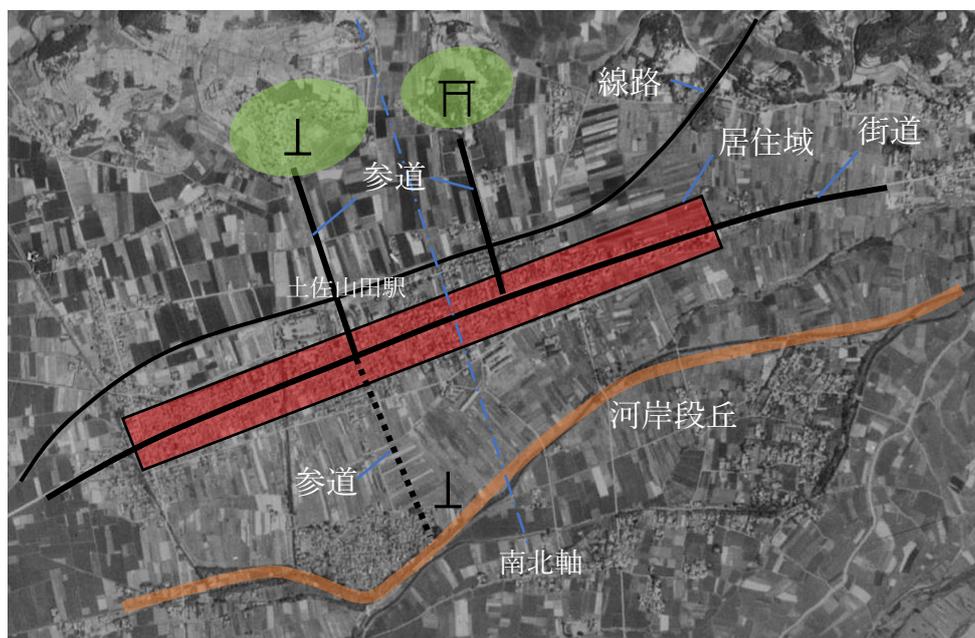


図 2-4. 高度経済成長期以前の土佐山田町の空間構成図 (1947 年)

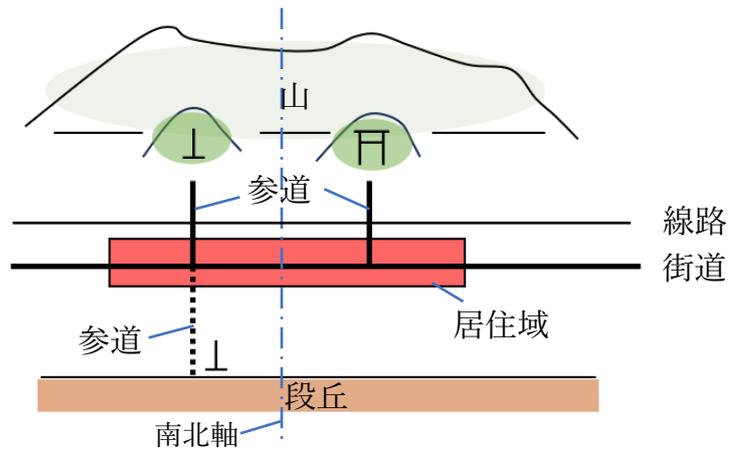


図 2-5. 高度経済成長期以前の土佐山田町の空間構成図（1947 年）抽象版

現存する土佐山田町の伝統的民家



図 2-6. 町家 1



図 2-7. 町家 2



図.2-8. 町家 3

・現在の土佐山田町の空間

現在の土佐山田町の地域空間は、高度経済成長期以降の急激な変容によって、地域固有の民家、居住域とそれを取り巻く地形の繋がり、さらには地形のその先の彼方への広がりを実感しづらい状況になっている。スプロール現象によって領域のまとまりが不明瞭になり、スポンジ化現象によって中心的な居住域が空洞化することで、その地に固有の地域空間が希薄になっている。

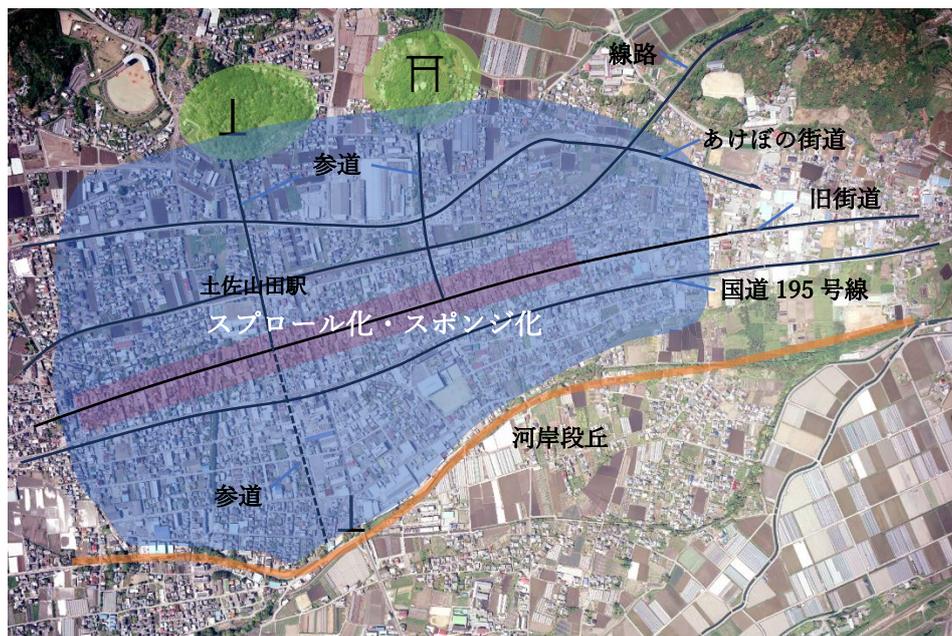


図 2-9. 現在の土佐山田町の空間構成図(2010 年)

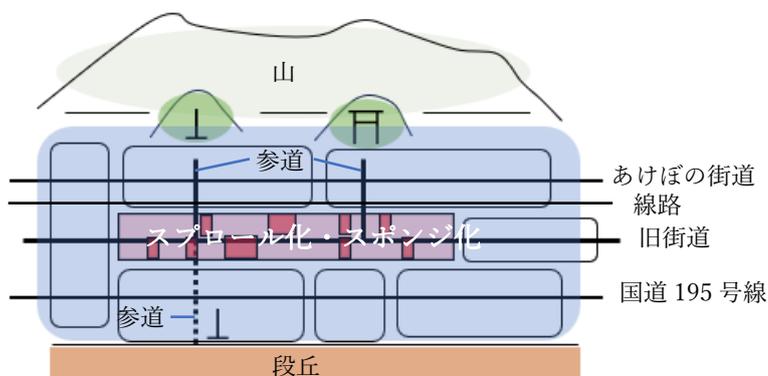


図 2-10. 現在の土佐山田町の空間構成図(2010 年)抽象版

土佐山田町のスポンジ化現象（空地化・駐車場化）



図 2-11. 空地化 1



図 2-12. 空地化 2



図 2-13. 駐車場化

2-2. 土佐山田町のフィールド構成

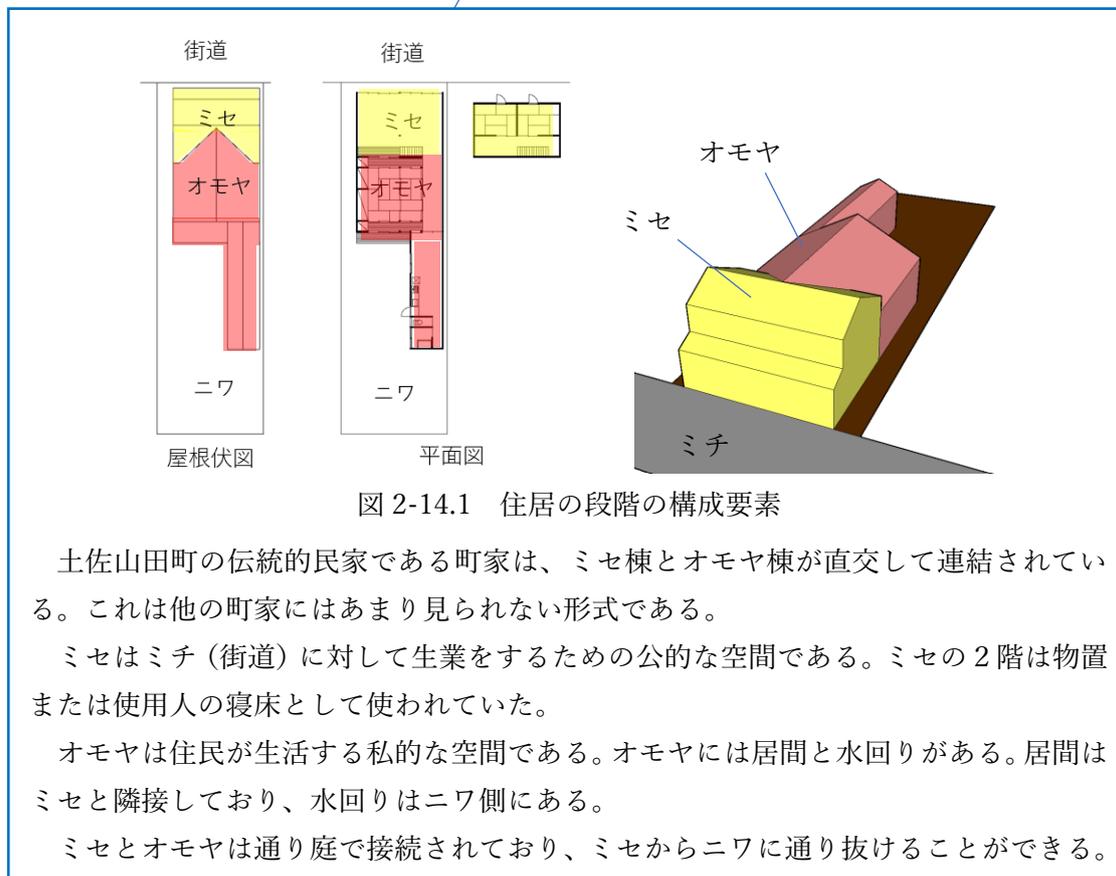
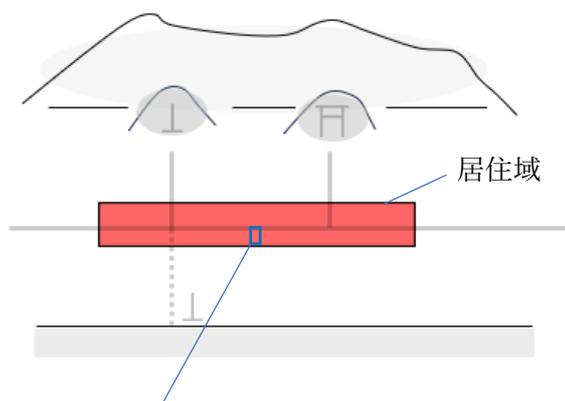
本節では 2 章で示したフィールド構成を基に、土佐山田町の地域空間を見ていく。高度経済成長期以前の土佐山田町の地域空間はフィールド構成が明瞭であるので、高度経済成長以前の様態を元にフィールド構成を読み解いていく。

2-2-1. 土佐山田町のフィールドの各段階と構造

・住居の段階と構造

住居の段階の構成要素としては、町家（ミセ、オモヤ）が該当する。

居住域は東西方向に伸びている。



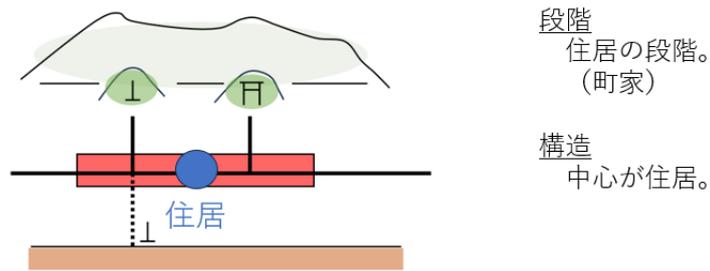


図 2-14.2 住居の段階と構造

・都市の段階と構造

都市の段階の構成要素としては、ミチ（街道）、イノリミチ（参道）、神社、オクリミチ（参道）、墓地が該当する。ミチ（街道）は東西方向に伸びており、イノリミチ（参道）やオクリミチ（参道）はミチ（街道）と直交して接続され、神社や墓地は2つの小丘陵と段丘に配置されている。2つの小丘陵を挟む南北軸に対して線対称に近い構成になっている。

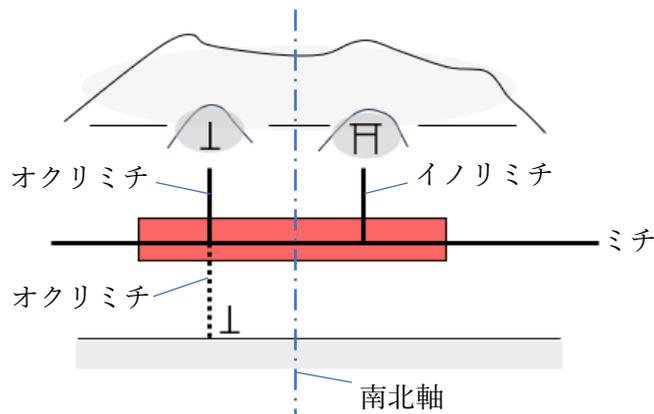


図 2-15.1 都市の段階の構成要素

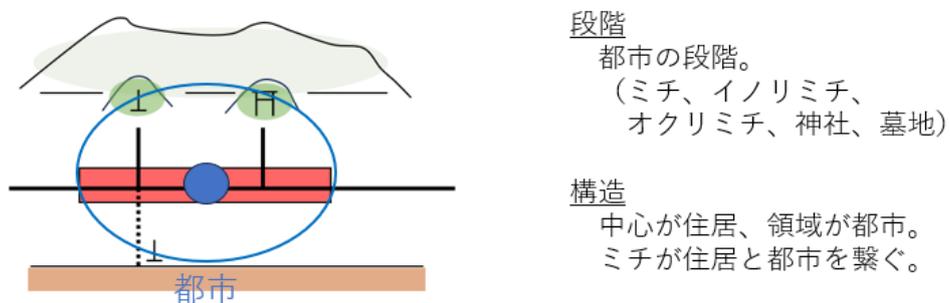


図 2-15.2 都市の段階と構造

・景観の段階と構造

景観の段階の構成要素としては、山、段丘が該当する。山は北方に、段丘は南方に位置する。

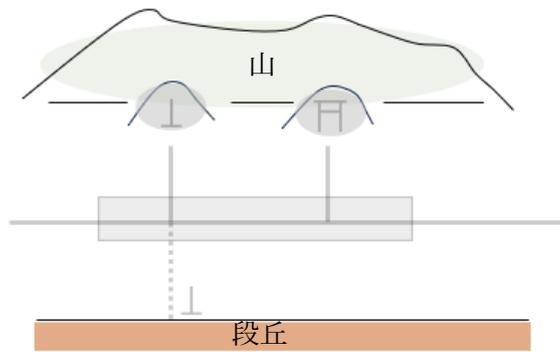
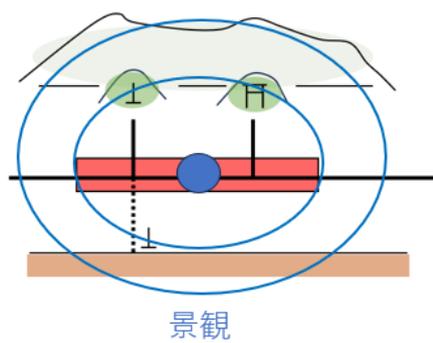


図 2-16.1 景観の段階の構成要素



段階
景観の段階。
(山、段丘)

構造
中心が都市、領域が景観。
イノリミチやオクリミチが
都市と景観を繋ぐ。

図 2-16.2 景観の段階と構造

・地球の段階と構造

地球の段階の構成要素としては、空と大地、その先の彼方への広がりがある。空と彼方は山の先に広がり、大地と彼方は段丘の先に広がる。

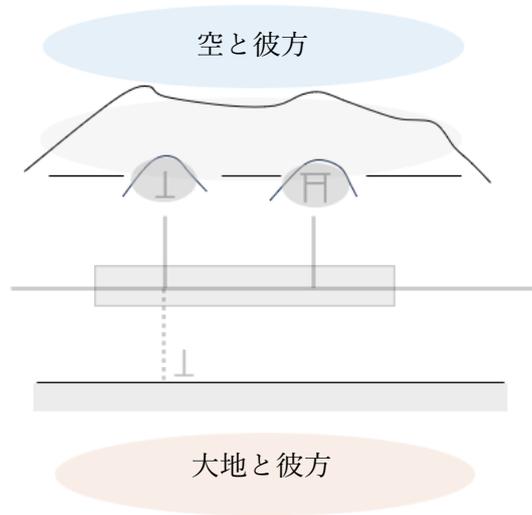


図 2-17.1 地球の段階の構成要素

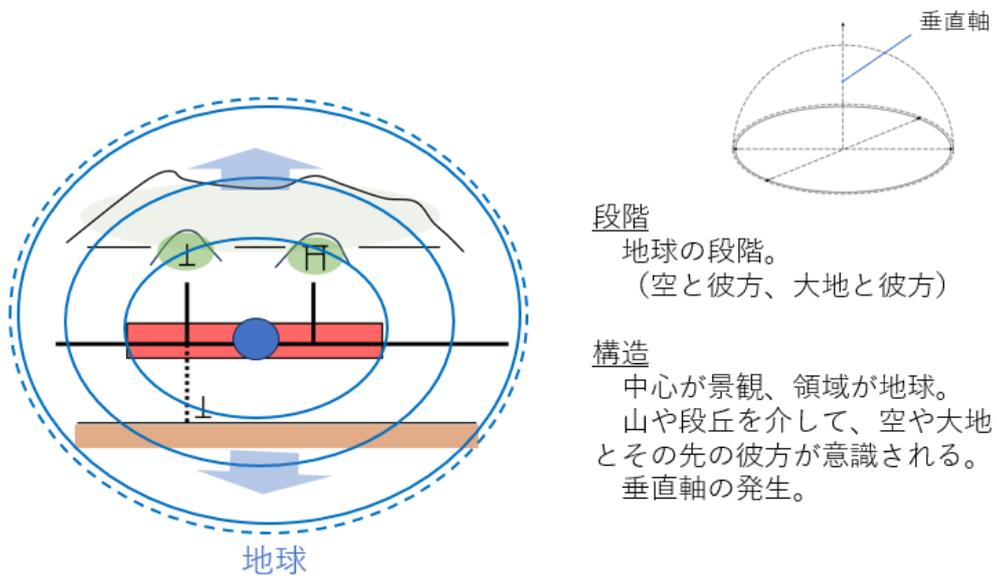


図 2-17.2 地球の段階と構造

2-2-2. 土佐山田町のフィールド(場)の段階の繋がり

・住居—都市

住居の段階であるミセは、都市の段階であるミチ(街道)に対して生業をする空間なので、ミセとミチは密接に結び付いている。これにより住居と都市の段階の結び付きを感じられる。

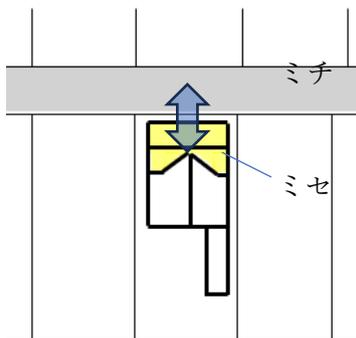


図 2-18. 住居—都市の構成

・都市—景観

都市の段階である神社や墓地が、景観の段階である山や段丘に結び付けられるように配置されることで、都市と景観の段階の結びつきを感じられる。

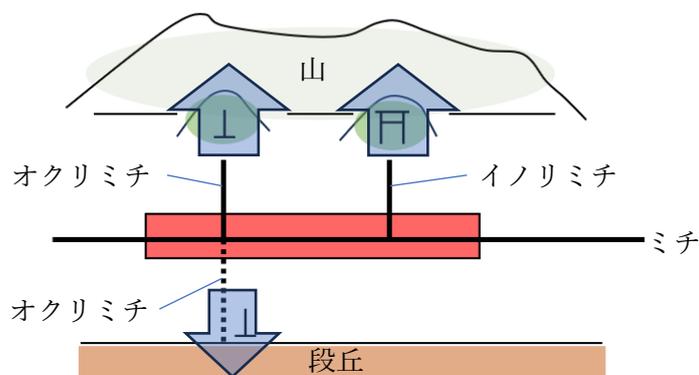


図 2-19. 都市—景観の構成

・景観—地球

景観の段階である山や段丘を介して、地球の段階である空や大地とその先の彼方が意識されることで、景観と地球の段階の結びつきを感じられる。

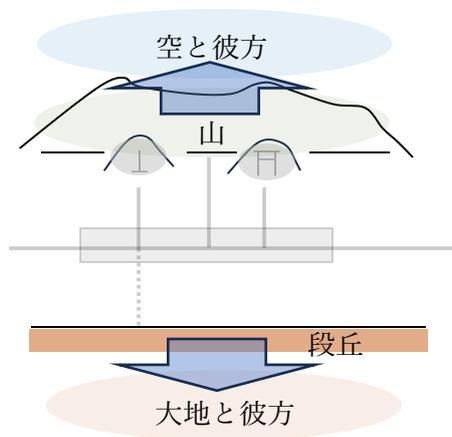


図 2-20. 景観—地球の構成

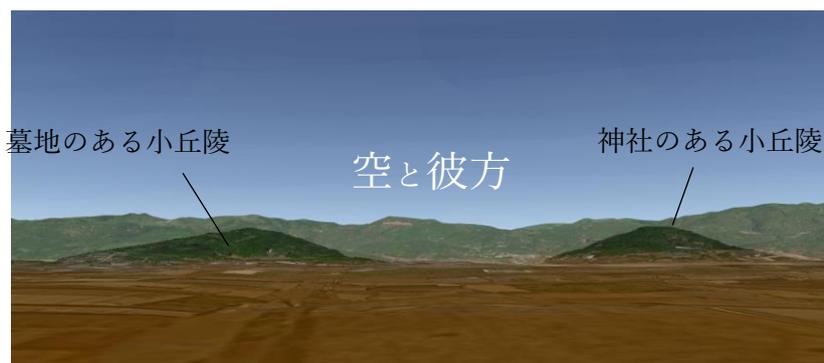


図 2-21. 高度経済成長期以前の土佐山田町の風景イメージ 1
2つの小丘陵やその奥にある山脈によって、空とその先に広がる彼方が意識される。

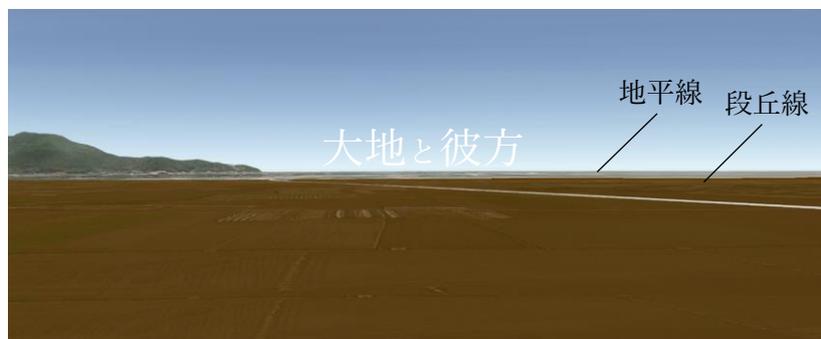


図 2-22. 高度経済成長期以前の土佐山田町の風景イメージ 2
段丘線によってできる近くの地平線と本来の地平線があることで、大地とその先に広がる彼方が意識される。

・住居—都市—景観—地球

土佐山田町における住居から地球までの段階の繋がりについて以下に示す。

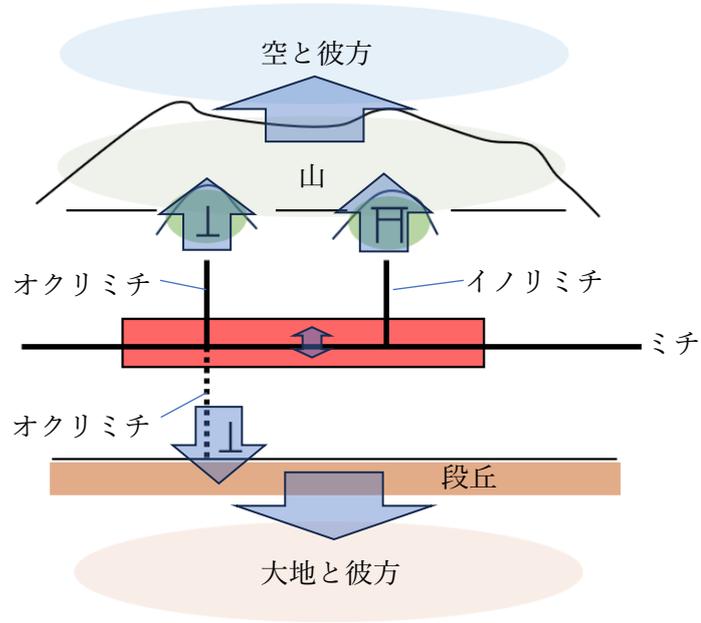


図 2-23. 住居—都市—景観—地球の構成図

住居	都市	景観	地球
オモヤ — ミセ — ミチ	イノリミチ — 神社	山	空と彼方
	オクリミチ — 墓地	山	空と彼方
	ナシ — ナシ	段丘	大地と彼方
	オクリミチ — 墓地	段丘	大地と彼方

表 2-1. 住居—都市—景観—地球の構成表

2-2-3. 現在の土佐山田町のフィールド構成

現在の土佐山田町のフィールド構成は、高度経済成長期以降の急激な変容によって不明瞭になっている。

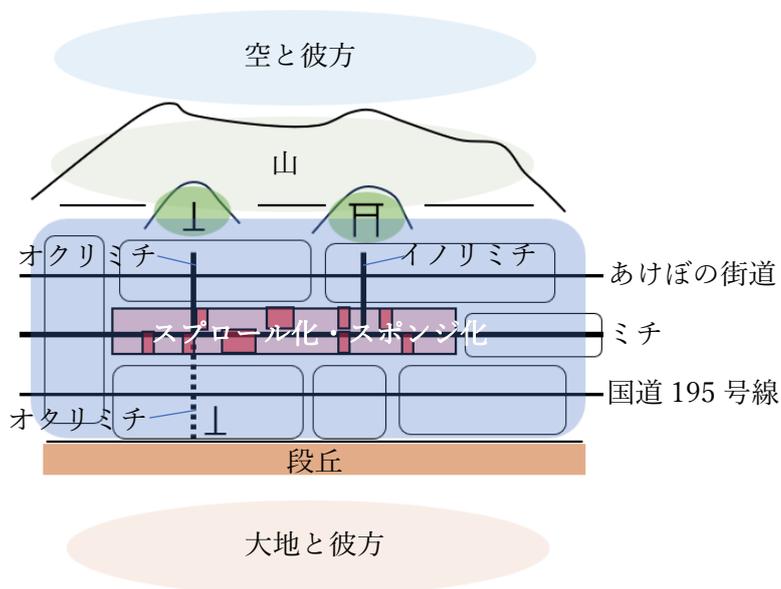


図 2-24. 現在の土佐山田町のフィールド構造図

住居	都市	景観	地球
オモヤ ミセ ミチ	イノリミチ 神社	山	空と彼方
	オクリミチ 墓地	山	空と彼方
	ナシ ナシ	段丘	大地と彼方
	オクリミチ 墓地	段丘	大地と彼方

表 2-2. 現在の土佐山田町のフィールド構造表

土佐山田町のフィールド構成は、かつては明瞭であったが、現在は高度経済成長期以降の急激な変容によって、フィールド構成が不明瞭になっている。

本設計における対象敷地の条件としては、元来は、フィールドの段階と構造が明瞭、かつ、現在は急激な変容によって、フィールドの段階と構造が不明瞭な地域空間とする。この条件を満たす地域空間の一つとして、高知県香美市土佐山田町を敷地選定する。

第3章 高知県香美市土佐山田町における

フィールドスペシフィック・ミュージアムの設計

3-1. 設計の指針

フィールドスペシフィック・ミュージアムは、対象の地域空間のフィールド構造を知覚させる美術館である。この美術館は、地域空間に空間展示を主とした小美術館を、地域空間のフィールド構造の根幹となる幾つかの要所に点在させ、小美術館の空間と地域空間を巡り歩くことで、その地域空間全体のフィールド構造を知覚できるように計画する。

フィールド構造は、住居、都市、景観、地球の4つの段階が結び付いて構成される。フィールドの各段階とその結び付きを知覚させるために、3つの小美術館を設計する。その3つの小美術館とは、住居と都市の段階とその結び付きを知覚する小美術館である「住居—都市ミュージアム」、都市と景観の段階とその結び付きを知覚する小美術館である「都市—景観ミュージアム」、景観と地球の段階とその結び付きを知覚する小美術館である「景観—地球ミュージアム」、以上の3つを設計する。これらの小美術館は、地域空間において、住居と都市、都市と景観、景観と地球のそれぞれの繋がりを知覚できる場所に設置する。

これらを踏まえて、フィールドスペシフィック・ミュージアムの設計指針を以下に示す。

(前提条件) 3つの小美術館をフィールド構造の根幹となる要所に配置し、小美術館と地域空間を巡り歩くことで、フィールド構造を知覚させる。

設計指針1：3つの小美術館はそれぞれフィールドの段階の知覚を可能にすること。

設計指針2：3つの小美術館と地域空間を巡り歩くことでフィールドの段階を小から大へと移行し、段階を介して構造を知覚すること。

設計指針3：3つの小美術館によって、地域空間のフィールド構造を更新すること。

設計指針1では、3つの小美術館はそれぞれフィールドの段階の知覚を可能にすることとしている。フィールドは4つの段階で構成されており、それぞれの段階が知覚できなければ、フィールド全体を知覚することは不可能である。1つの小美術館につき2つの段階を扱うことで、それぞれの段階が知覚でき、かつ、その結び付きを知覚できると考える。具体的には、住居と都市の段階とその結び付き、都市と景観の段階とその結び付き、景観と地球の段階とその結び付きを知覚できるようにする。

設計指針2では、3つの小美術館と地域空間を巡り歩くことでフィールドの段階を小から大へと移行し結び付けて全体となることとしている。フィールドの中心は住居の段階である。まずは知覚しやすい小さい段階から空間体験を始め、徐々に大きな段階へ移行することで、フィールド構造の全体を知覚しやすくなると思う。

設計指針3では、3つの小美術館によって、地域空間のフィールド構成を更新することとしている。フィールド構成を更新することで、現在においても地域空間が元来有しているフィールド構成を知覚できるようにする。

3-2. フィールドスペシフィック・ミュージアムの全体設計

3-2-1. 土佐山田町のフィールド構造図

土佐山田町のフィールド構造図について以下に示す。土佐山田町のフィールド構造に見られる大きな特徴は、2つの小丘陵が挟む南北軸に対して線対称になっていることである。

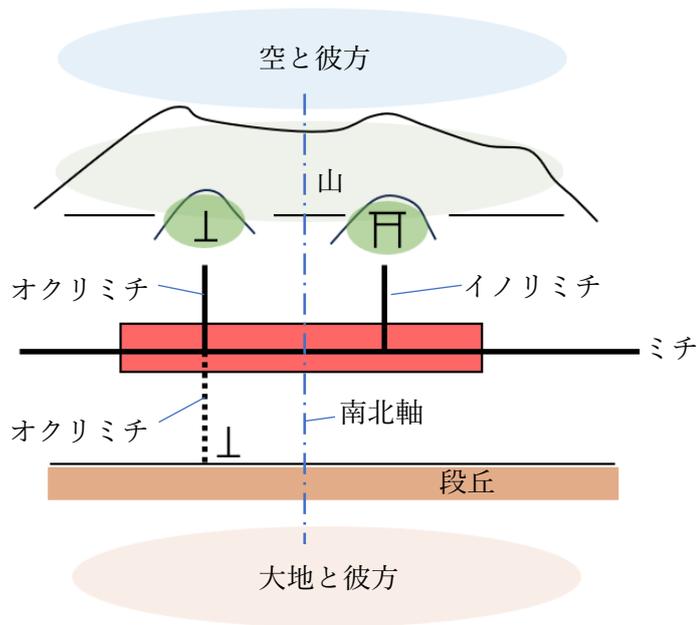


図 3-1. 土佐山田町のフィールド構造図

住居	都市	景観	地球
オモヤ — ミセ —	ミチ —	イノリミチ — 神社	山 — 空と彼方
		オクリミチ — 墓地	山 — 空と彼方
		ナシ — ナシ	段丘 — 大地と彼方
		オクリミチ — 墓地	段丘 — 大地と彼方

表 3-1. 土佐山田町のフィールド構造表

3-2-2. 土佐山田町におけるフィールドスペシフィック・ミュージアムの全体計画

土佐山田町におけるフィールドスペシフィック・ミュージアムは、高度経済成長期以前のフィールド構造を想起させるが、現在の状況においてそのまま想起させることは不可能であるため、高度経済成長期以前の土佐山田町のフィールド構造に倣って再編する。

3つの小美術館によって、フィールド構造を段階的に知覚させる。まず「住居—都市ミュージアム」によって、住居と都市の段階とその繋がりを知覚させる。次に「都市—景観ミュージアム」によって、都市と景観の段階とその繋がりを知覚させる。最後に八王子宮の参拝と「景観—地球ミュージアム」によって、景観と地球の段階とその繋がりを知覚させる。

土佐山田町のフィールド構造は、2つの小丘陵を挟む南北軸に対して線対称に近い構成になっている。2つの小丘陵には、都市と景観の段階を結び付けるために神社と墓地を設置している。墓地は死者を送る場であり、虚空の場である。本設計においては、墓地側は虚空の場として設計空間を設置しない。そのため、計画においてはフィールド構造図からは墓地を除いている。

・土佐山田町におけるフィールドスペシフィック・ミュージアムの配置計画

A:「住居—都市ミュージアム」は、住居と都市の段階の結びつきを知覚できる場所として、居住域の中心部に配置する。

B:「都市—景観ミュージアム」は、都市と景観の段階の結びつきを知覚できる場所として、ミチ（街道）とイノリミチ（参道）の結節点に配置する。

C:「景観—地球ミュージアム」は、景観と地球の段階の結びつきを知覚できる場所として、街村形成に影響を与える山、段丘に配置する。ただし、山は神社により知覚が促されるため、山には設置しない。



図 3-2. 配置計画図

・土佐山田町の順路計画

モデルルート

- A: 「住居—都市ミュージアム」
- B: 「都市—景観ミュージアム」
- 八王子宮（参拝）
- C: 「景観—地球ミュージアム」

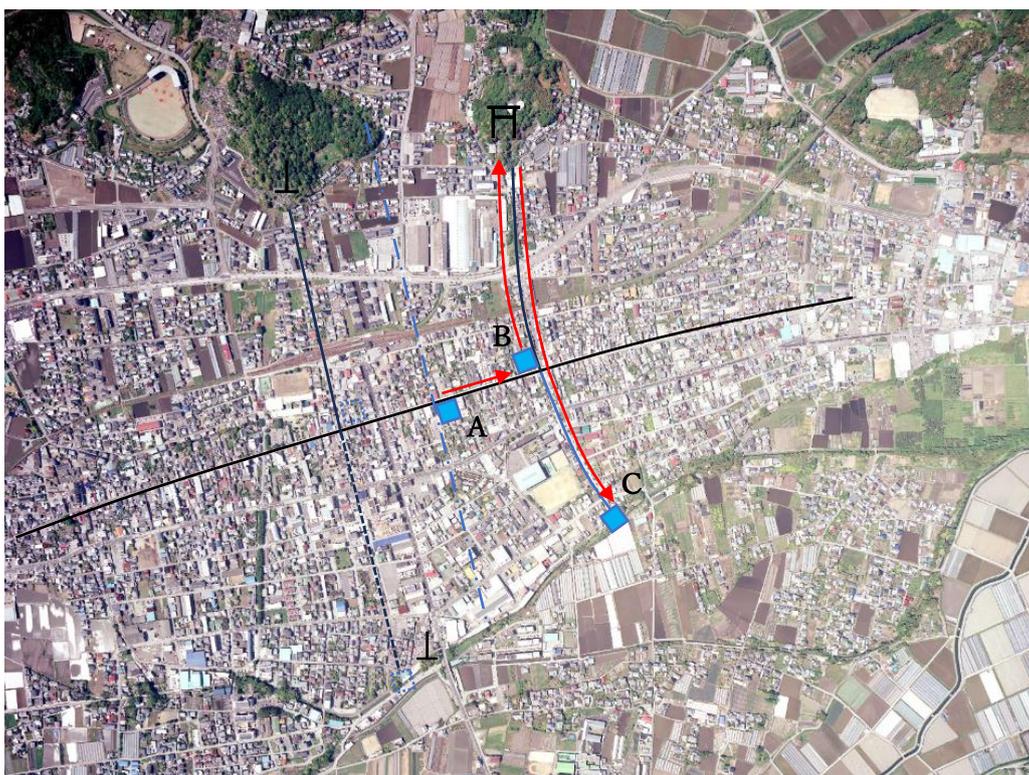


図 3-3. 順路計画図

・土佐山田町のフィールド構造の再編ダイアグラム

A: 「住居—都市ミュージアム」

住居	都市	景観	地球
A オモヤ — ミセ — ミチ	イノリミチ — 神社 ナシ — ナシ	山 段丘	空と彼方 大地と彼方

表 3-2. 「住居—都市ミュージアム」とフィールド構造

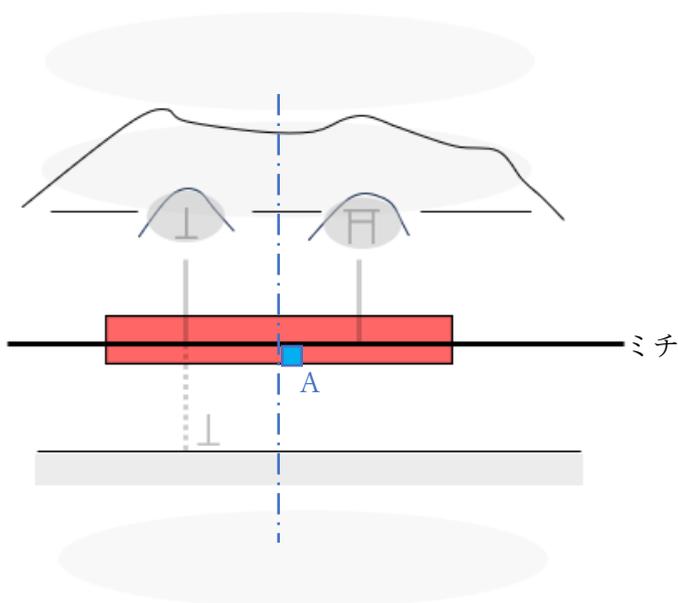


図 3-4. 「住居—都市ミュージアム」の配置計画

住居—都市ミュージアムでは、オモヤ、ミセ、ミチを知覚させることで、住居と都市の段階とその繋がりを知覚させる。ミセとミチは密接に結び付いており、ミセの知覚によってミチの知覚が促される。

「八王子宮」

住居	都市	景観	地球
オモヤ — ミセ	ミチ — イノリミチ — 神社	山	空と彼方
	ナシ — ナシ	段丘	大地と彼方

表 3-4. 「八王子宮」とフィールド構造

C: 「景観—地球ミュージアム」

住居	都市	景観	地球
オモヤ — ミセ	ミチ — イノリミチ — 神社	山	空と彼方
	C — —	段丘	大地と彼方

キヨノイノリミチ キヨノジンジャ

表 3-5. 「景観—地球ミュージアム」とフィールド構造

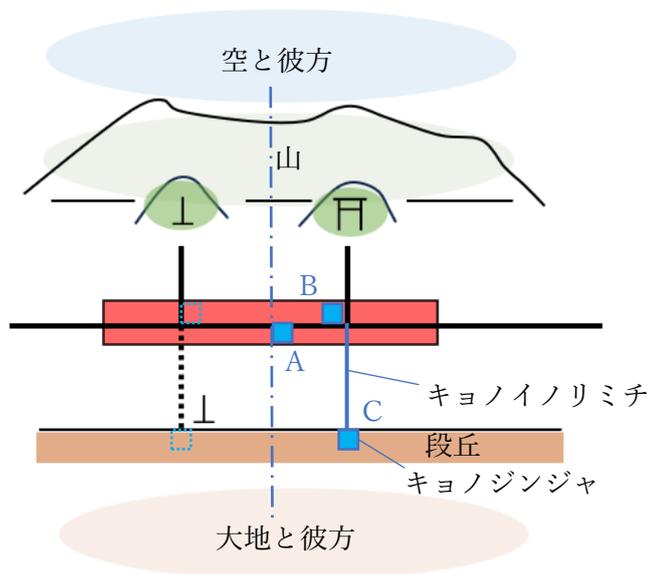


図 3-6. 「景観—地球ミュージアム」の配置計画

八王子宮の参拝では、神社、山、空と彼方を知覚させ、景観—地球ミュージアムでは、キヨノイノリミチ、キヨノジンジャ、段丘、大地と彼方を知覚させることで、景観と地球の段階とその繋がりを知覚させる。

キョノイノリミチとキョノジンジャは新たに設定した要素である。キョノイノリミチは元来なかった参道であり、キョノジンジャは元来なかった神社である。これらは元来のフィールド構造を再編し、現状においてもフィールド構造を知覚できるようにするためのものである。

小美術館は墓地側に設置しないが、土佐山田町のフィールド構造が有している線対称の構成により、墓地側の空間を意識させる。

3-3. フィールドスペシフィック・ミュージアム、3つの小美術館設計

フィールドスペシフィック・ミュージアムの3つの小美術館は、2章で述べたように、空間展示、資料展示、伝統的民家の活用を踏襲して設計する。

3つの小美術館を土佐山田町の伝統的民家の構成を活用することで、3つの小美術館の空間を結び付け、ひとまとまりの空間体験ができるように設計する。それぞれの小美術館では、空間展示と資料展示を行う。

・町家の活用方針

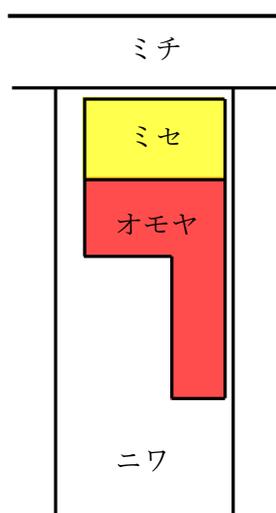


図 3-7. 土佐山田の町家の構成

住居の段階を知覚させる場合

- ・町家の空間を変容せず、原型のままの空間にする。

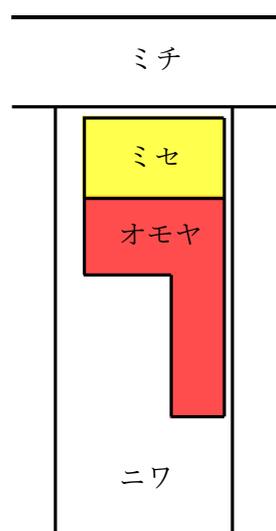


図 3-8. 土佐山田の町家の活用 1

住居の段階以外を知覚させる場合

- ・建物（ミセ、オモヤ）は、対象となる段階と繋がりが強いものは原型の維持、繋がりが弱いものはボイド化（痕跡化）させる。ボイド化は、屋根と側壁以外を抜き取ることで行う。

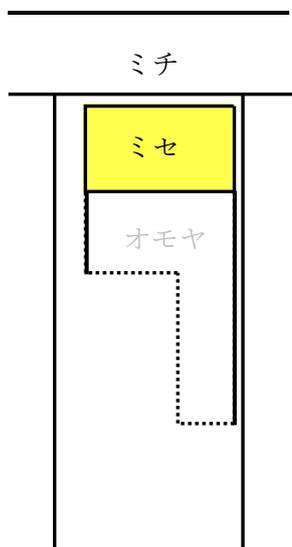


図 3-9. 土佐山田の町家の活用 2

都市の段階であるミチを知覚させる場合、ミチと密接に結びつくミセのみが原型を保持し、オモヤはボイド化する。

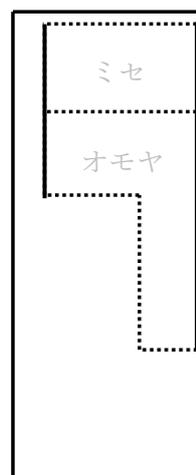


図 3-10. 土佐山田の町家の活用 3

都市の段階であるミチを知覚させない場合、ミセとオモヤはボイド化する。

- ・ニワはウチニワ化（内部空間化）させ、住居以外の段階の知覚として変容可能な空間とする。

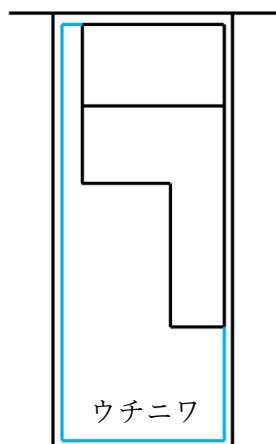


図 3-11. 土佐山田の町家の活用 4

3-3-1. 住居—都市ミュージアムの設計

住居—都市ミュージアムは、住居と都市の段階とその結び付きを知覚する小美術館である。

町家の活用

この小美術館の町家の活用としては、住居の段階を知覚させるので、町家の空間を変容せず原型のままの空間にする。

フィールド構成の知覚

住居の段階の知覚は、土佐山田の町家（オモヤ、ミセ）の知覚によって行う。

都市の段階は、ミチ（街道）の知覚によって行う。ミチとミセは密接に結びついており、住居の段階においてミセを知覚させているので、これによりミチ（街道）の知覚が促される。

住居と都市の段階の繋がりを知覚は、ミセとミチの繋がりによって知覚される。

A: 「住居—都市ミュージアム」

住居	都市	景観	地球
A オモヤ — ミセ — ミチ	イノリミチ — 神社 ナシ — ナシ	山 段丘	空と彼方 大地と彼方

表 3-2. 「住居—都市ミュージアム」とフィールド構成

平面計画

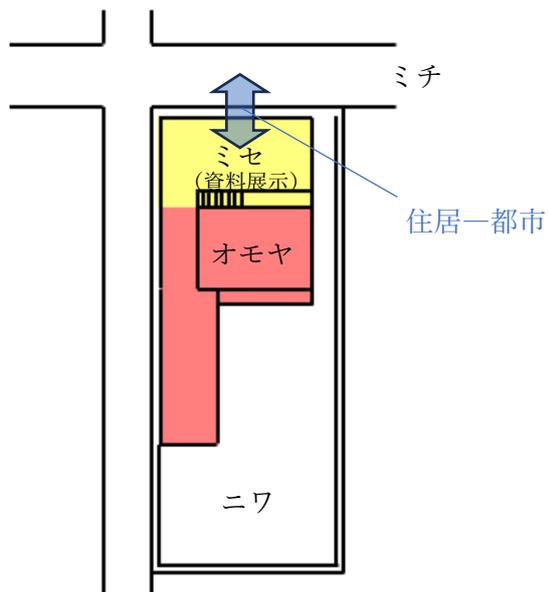


図 3-12. 「住居一都市ミュージアム」の平面計画

ミセとミチの結びつきによって、住居と都市の段階の結びつきを知覚させる。

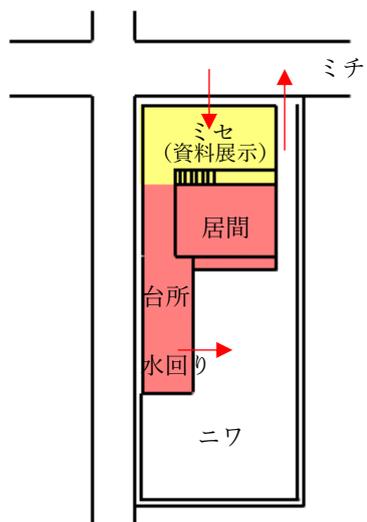
ミセ部分において、資料展示を行う。この資料展示では、かつての土佐山田の地域住民の生活風景の写真、日用品、旧街道における生業の歴史の資料などを展示する。

断面計画



図 3-13. 「住居一都市ミュージアム」の断面計画

順路計画



- ミチからミセに入る。
- ミセでの資料展示を鑑賞する。
- ミセ、オモヤの中を自由に見て回る。
- 水回り付近の出口からニワに出る。
- ニワからミチに続く脇道からミチに出る。

図 3-14. 「住居—都市ミュージアム」の順路計画

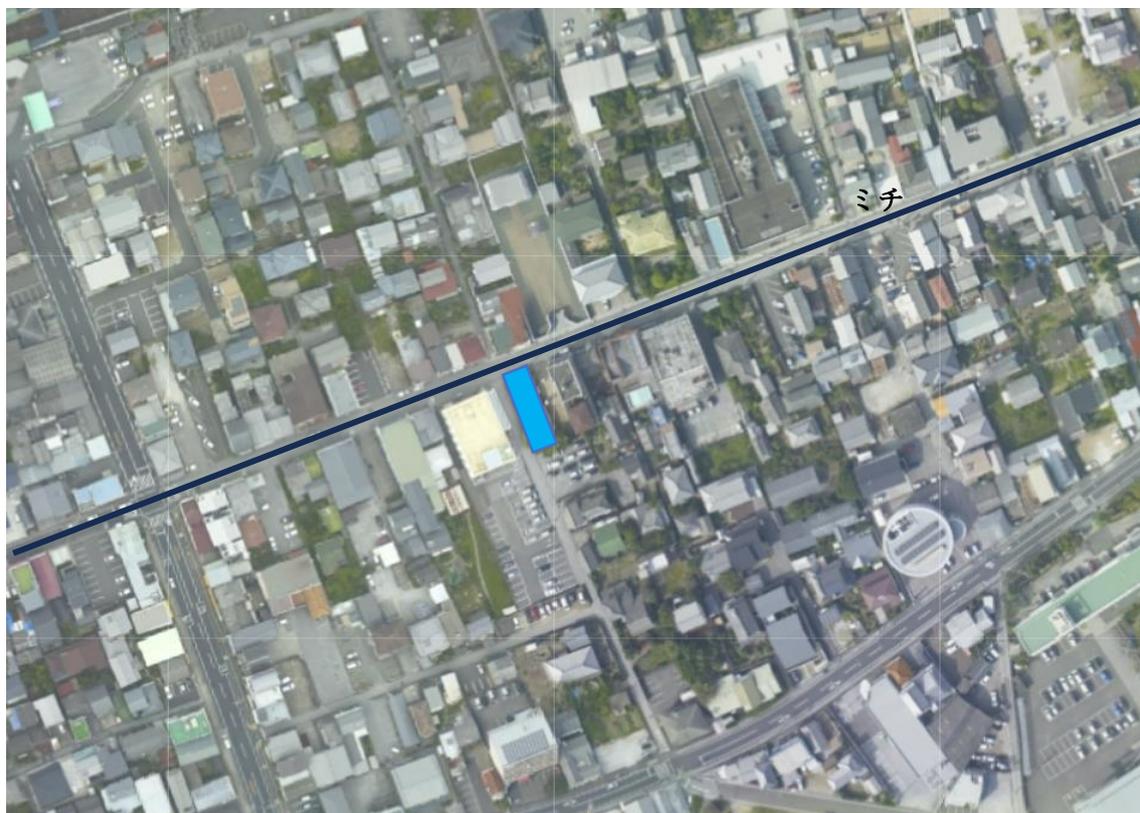


図 3-15. 「住居—都市ミュージアム」の配置図

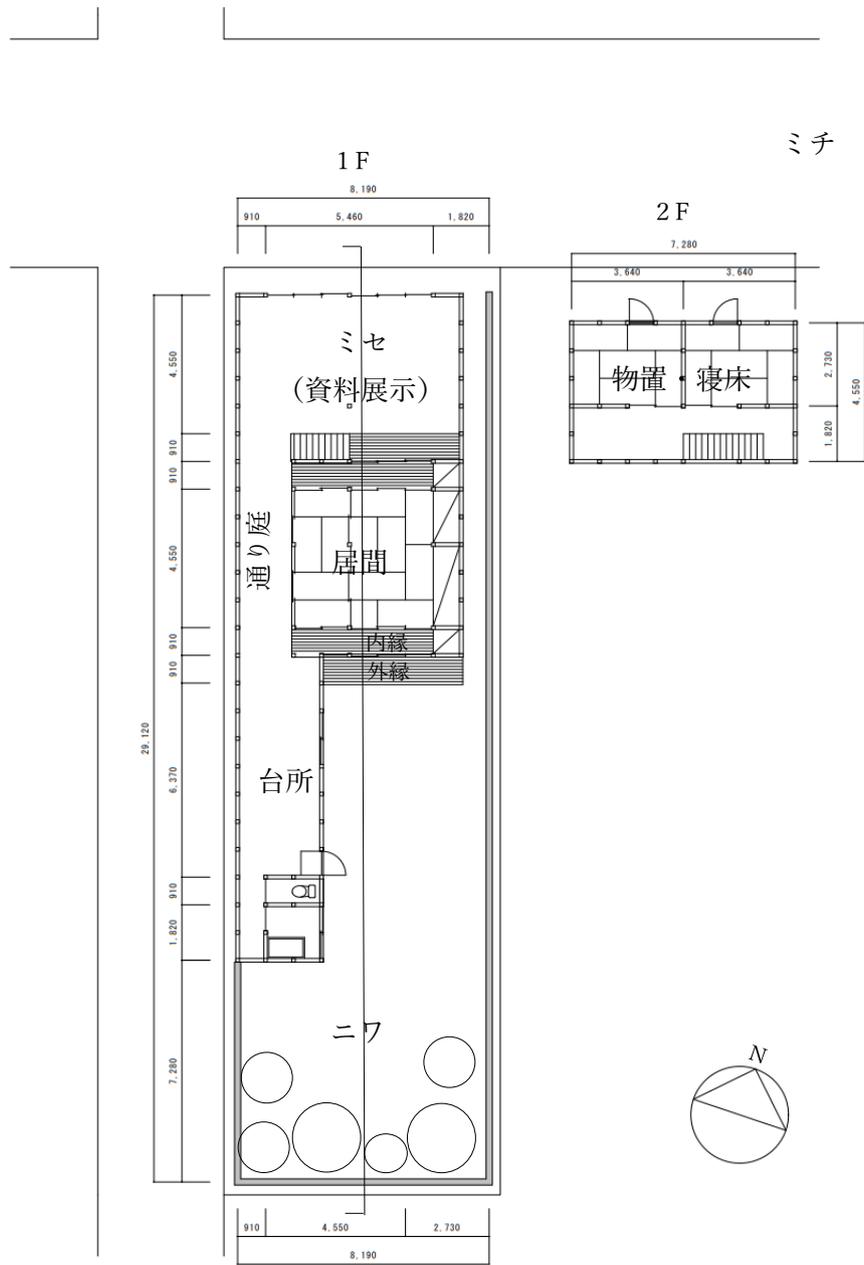


図 3-16. 「住居一都市ミュージアム」の平面図

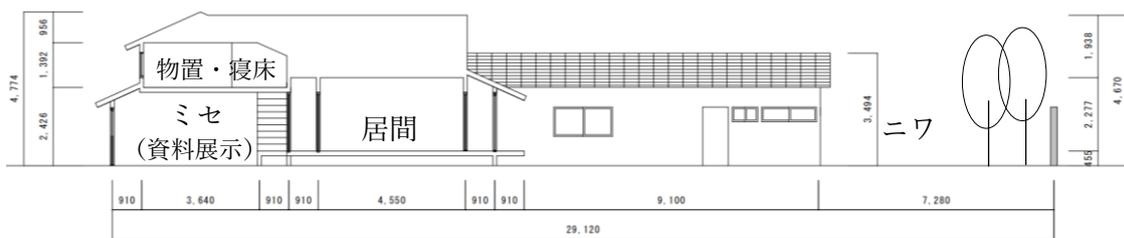


図 3-17. 「住居一都市ミュージアム」の断面図

3-3-2. 都市—景観ミュージアムの設計

都市—景観ミュージアムは、都市と景観の段階とその結び付きを知覚する小美術館である。

町家の活用

この小美術館の町家の活用としては、住居以外の段階を知覚させるので、建物（ミセ、オモヤ）は、対象となる段階と繋がりが強いものは原型の維持、繋がりが弱いものはボイド化（痕跡化）させる。ここでは都市の段階であるミチ（街道）を知覚させるので、ミチ（街道）と密接に結びつくミセのみが原型を保持し、オモヤはボイド化する。

ニワはウチニワ化（内部空間化）させ、住居以外の段階の知覚として変容可能な空間とする。

フィールド構成の知覚

都市の段階の知覚は、ミチ（街道）の知覚によって行う。ミチ（街道）とミセは密接に結びついており、ミセの知覚によって都市の段階であるミチ（街道）の知覚を促す。

景観の段階は、イノリミチ（参道）の知覚によって行う。イノリミチ（参道）は神社、山と密接に結びついており、イノリミチ（参道）を知覚させることで、景観の段階である山の知覚を促す。

都市と景観の段階の繋がりの知覚は、ミチ（街道）とイノリミチ（参道）が直交して結び付いていることを知覚させることで行う。

B: 「都市—景観ミュージアム」

住居	都市		景観	地球
B オモヤ — ミセ — ミチ	イノリミチ	神社	山	空と彼方
	ナシ	ナシ	段丘	大地と彼方

表 3-3. 「都市—景観ミュージアム」とフィールド構成

平面計画

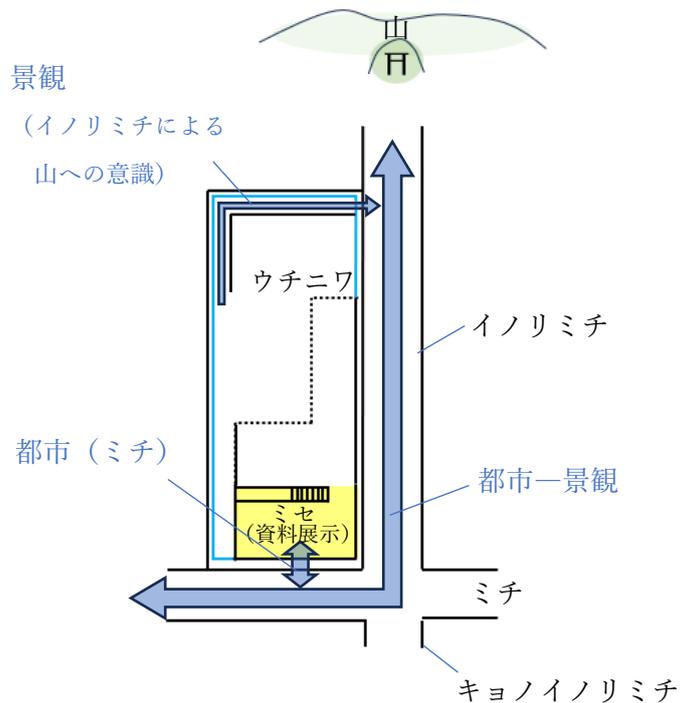


図 3-18. 「都市一景観ミュージアム」の平面計画

町家はミセのみが原型を保持している。このミセにより、都市の段階であるミチを知覚させる。

ウチニワでは、イノリミチと平行な細長い曇りガラスを設けている。この曇りガラスからイノリミチの光が入ることで、イノリミチへ意識を向ける。

ウチニワにある直角に曲がる通路の体験によって、ミチとイノリミチが直交していることを意識させる。

ミセ部分において、資料展示を行う。この資料展示では、神社や墓地、土佐山田町を取り巻く地形などに関する資料を展示する。

断面計画

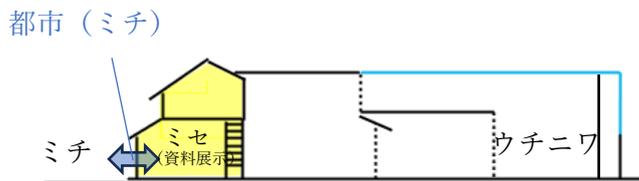


図 3-19. 「都市一景観ミュージアム」の断面計画

ウチニワのボリュームは、オモヤの屋根を延長したもので構成する。

順路計画

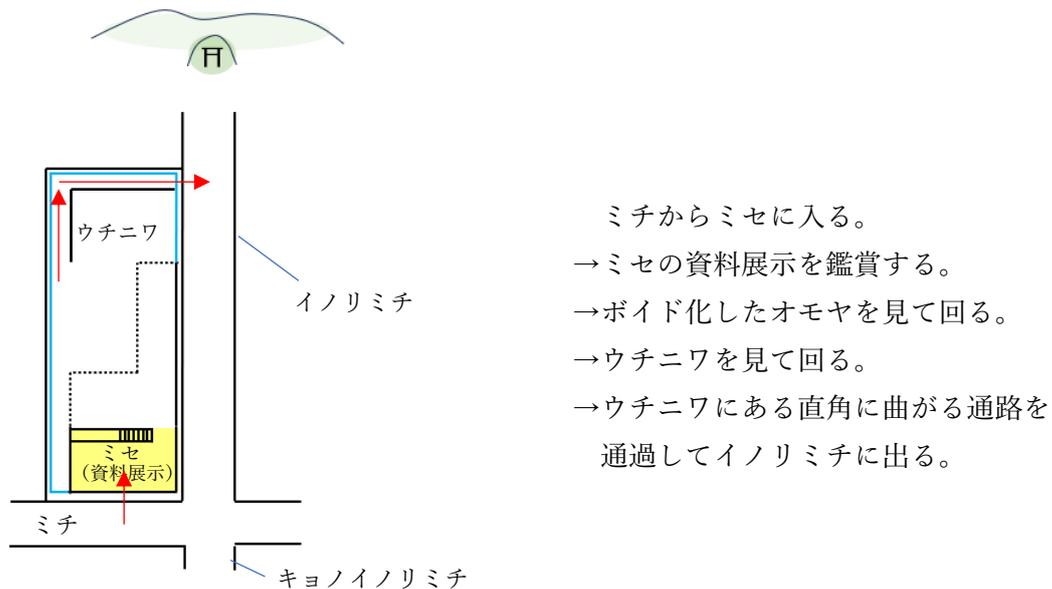


図 3-20. 「都市—景観ミュージアム」の順路計画

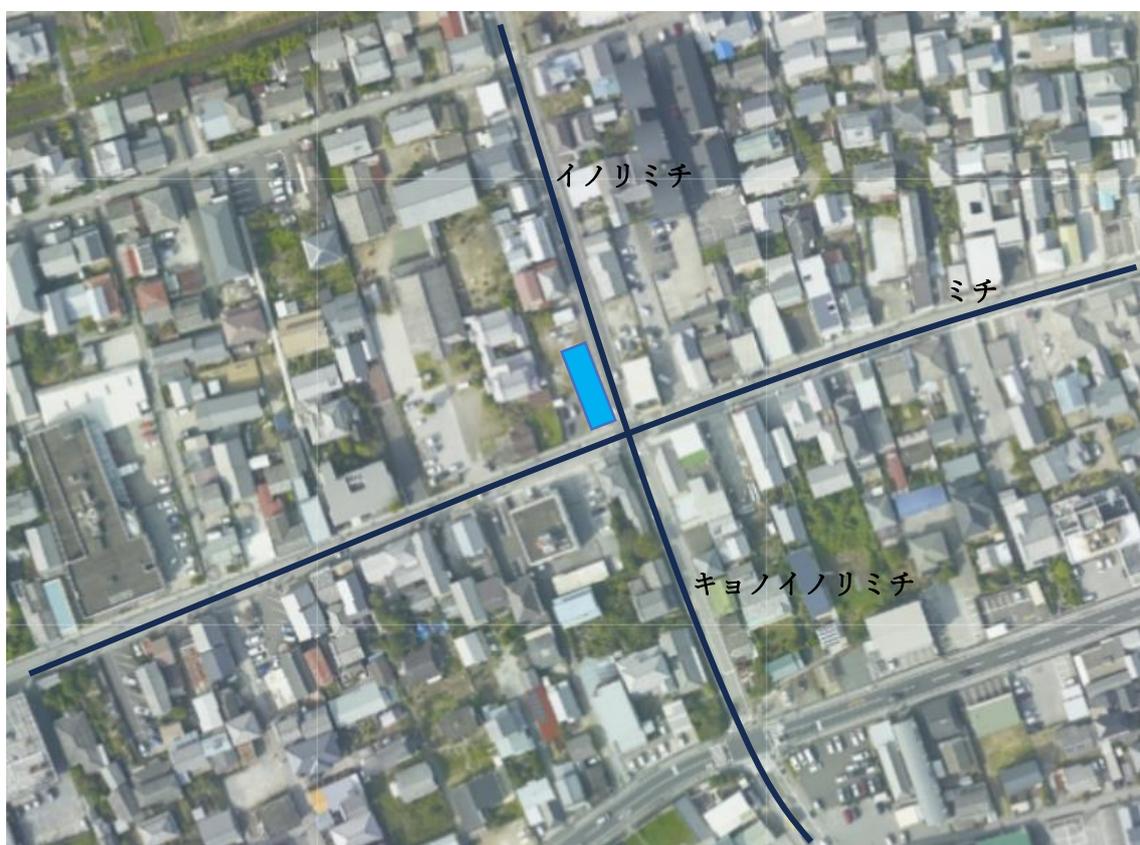


図 3-21. 「都市—景観ミュージアム」の配置図

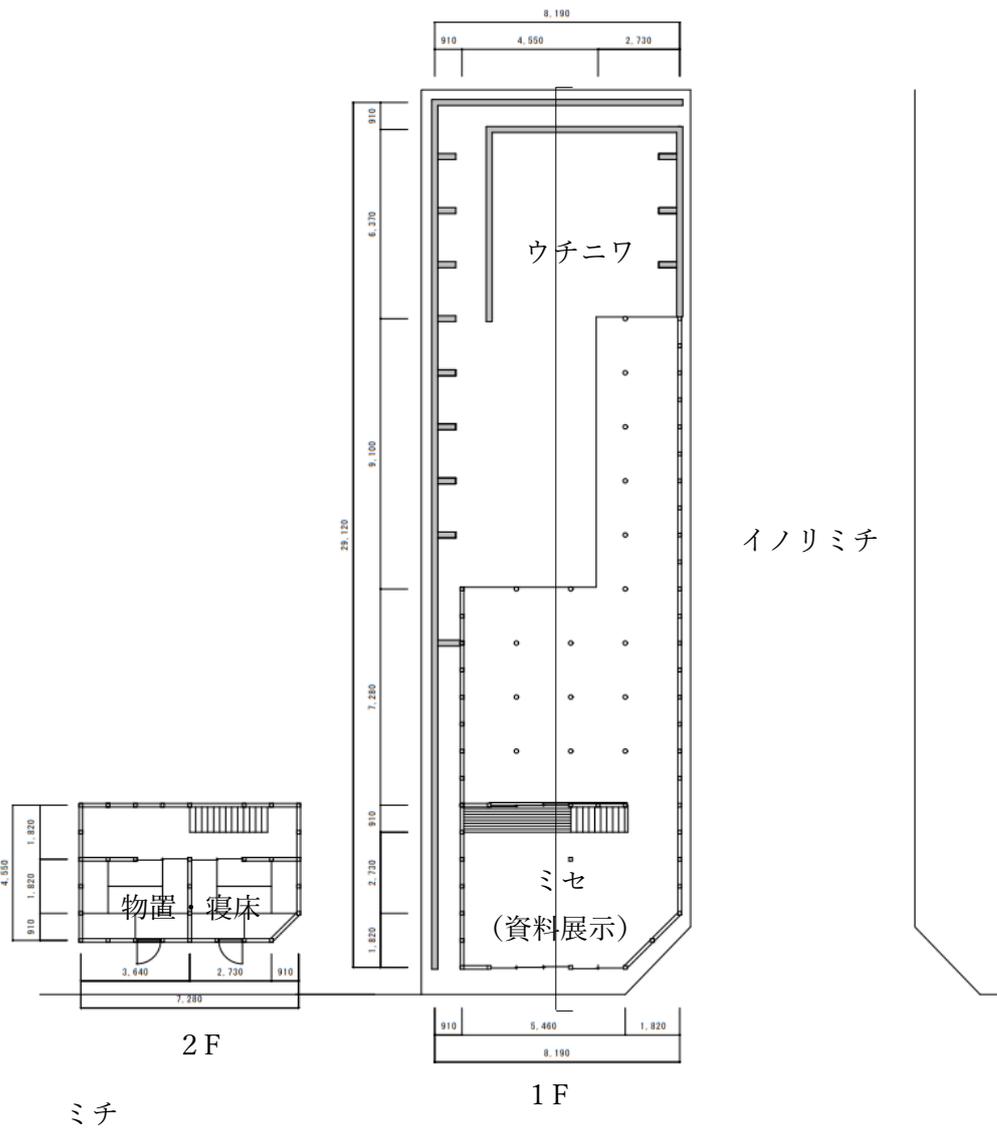


図 3-22. 「都市一景観ミュージアム」の平面図

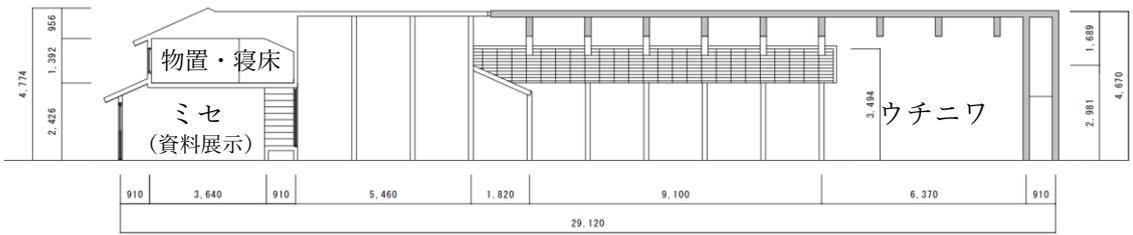


図 3-23. 「都市一景観ミュージアム」の断面図

3-3-3. 景観—地球ミュージアムの設計

景観—地球ミュージアムは、景観と地球の段階とその結び付きを知覚する小美術館である。

町家の活用

この小美術館の町家の活用としては、住居以外の段階を知覚させるので、建物（ミセ、オモヤ）は、対象となる段階と繋がりが強いものは原型の維持、繋がりが弱いものはボイド化（痕跡化）させる。ここでは、都市の段階であるミチを知覚させないので、ミセとオモヤはボイド化する。

フィールド構成の知覚

景観の段階の知覚は、段丘の知覚によって行う。新たに設定したキョノイノリミチとキョノジンジャによって神社のような構成を生み出し、段丘上に配置されるキョノジンジャから段丘を知覚させる。

地球の段階は、大地と彼方の知覚によって行う。キョノジンジャから段丘を介して大地とその先の彼方を知覚させる。キョノジンジャによって、大地とその先の彼方に向かって遙拝するような構成になっている。

景観と地球の段階の繋がりの知覚は、段丘を介して大地とその先の彼方を知覚させることで行う。

C: 「景観—地球ミュージアム」

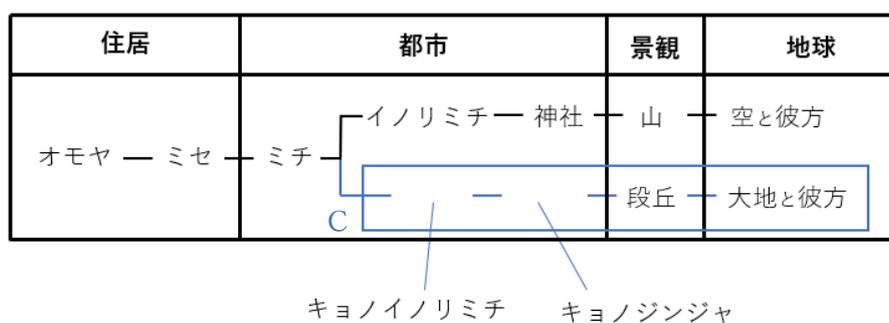


表 3-5. 「景観—地球ミュージアム」とフィールド構造

平面計画

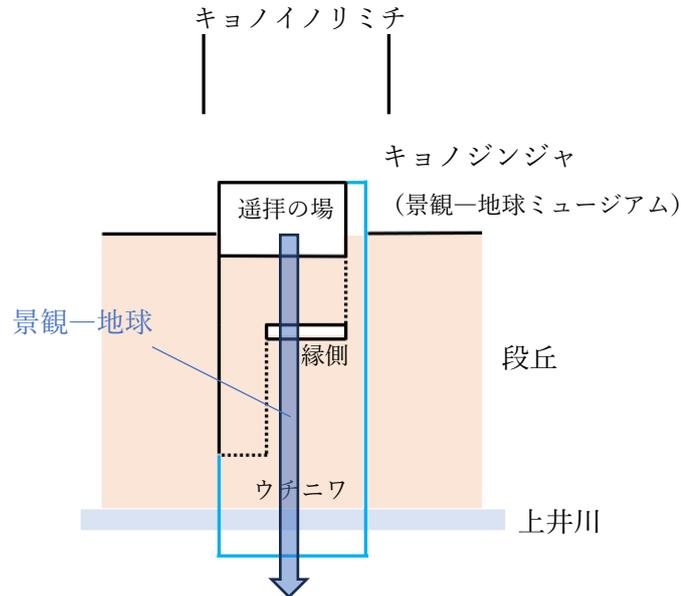


図 3-24. 「景観-地球ミュージアム」の平面計画

町家は、ミセとオモヤともにボイド化している。遥拝の場（ミセ部分）と縁側のみ床が張ってある。

遥拝の場（ミセ部分）から段丘や大地と彼方を見られる。段丘を介して大地と彼方を知覚できるようにしていることで、景観と都市の段階の繋がりを知覚できる。

ウチニワは、大地と彼方を象徴的にみせる空間である。縁側は町家（ミセ、オモヤ）とニワを結び付けるものであり、遥拝の場（ミセ部分）から縁側を象徴的にみせることで、ウチニワの空間をより象徴的なものへとする。

断面計画

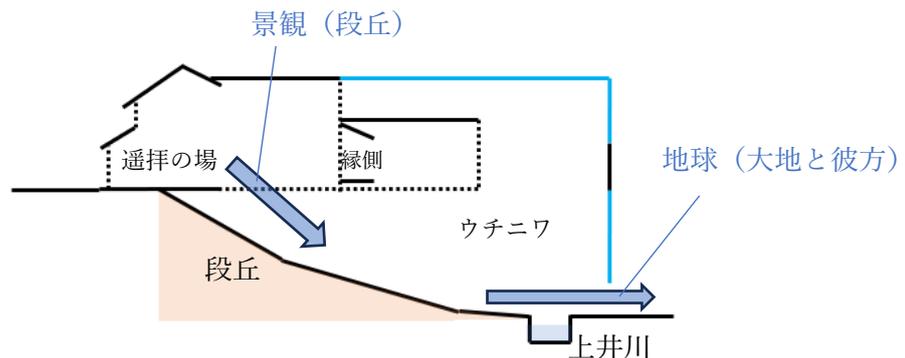
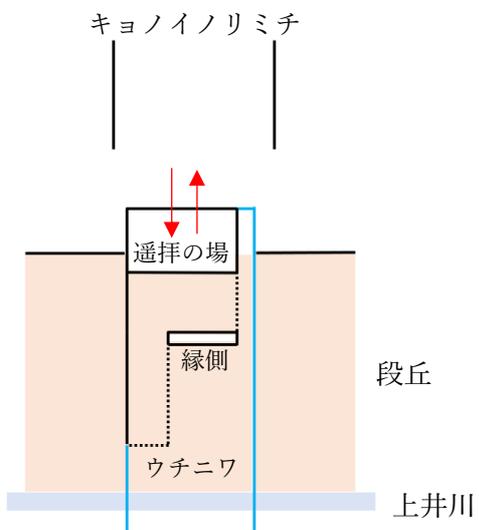


図 3-25. 「景観-地球ミュージアム」の断面計画

設計の対象領域である中心市街地は、上井川から融水することで生活用水を確保していた。この上井川をウチニワの空間において象徴的にみせることで、中心市街地を支える基盤を意識させる。

順路計画



キヨノイノリミチから遥拝の場へ入る。
→遥拝の場において、段丘とそれを介した
大地と彼方をみる。
→遥拝の場からキヨノイノリミチへ出る。

※遥拝の場(ミセ部分)のみ立ち入りできる。

図 3-26. 「景観—地球ミュージアム」の順路計画



図 3-27. 「景観—地球ミュージアム」の配置図

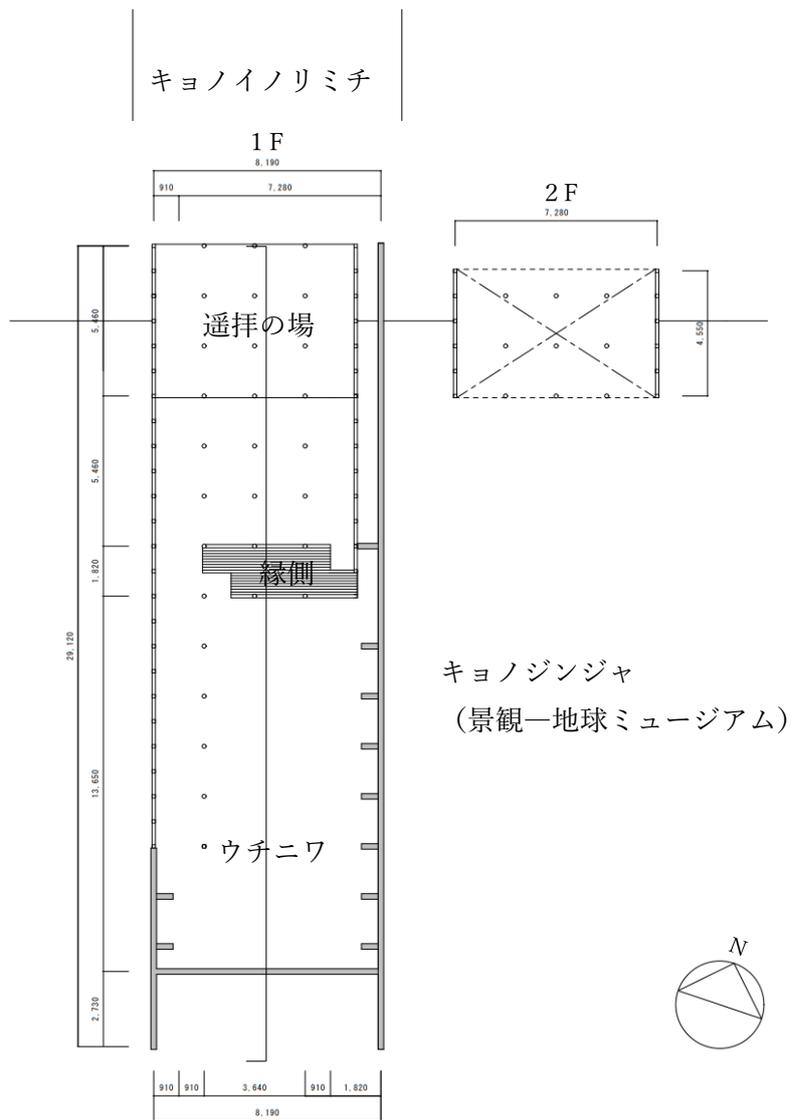


図 3-28. 「景観—地球ミュージアム」の平面図

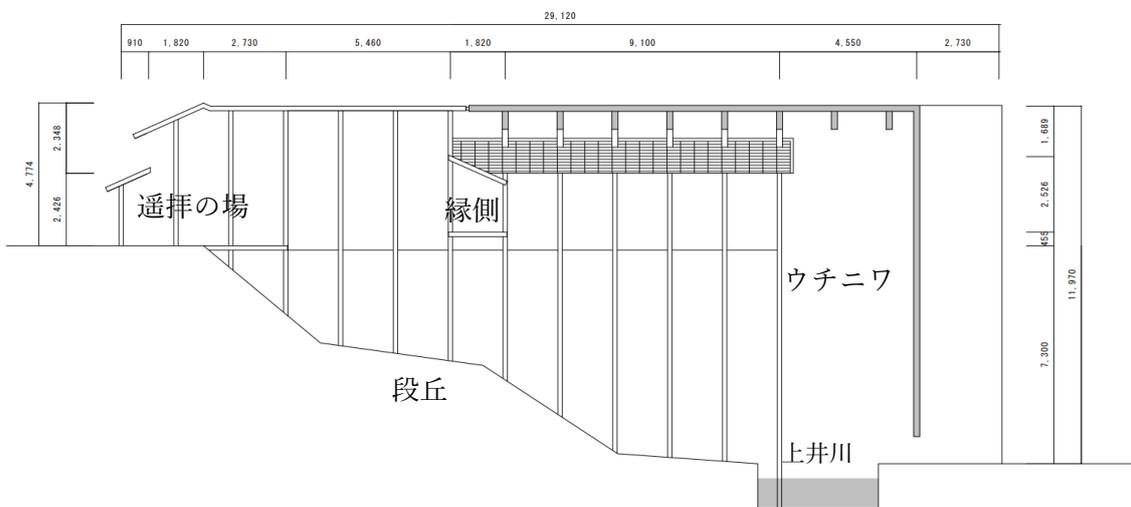


図 3-29. 「景観—地球ミュージアム」の断面図

3-4. フィールドスペシフィック・ミュージアムのある情景

3-4-1. 順路で展開するフィールドの風景

フィールドスペシフィック・ミュージアムの全体シーケンスを以下に示す。

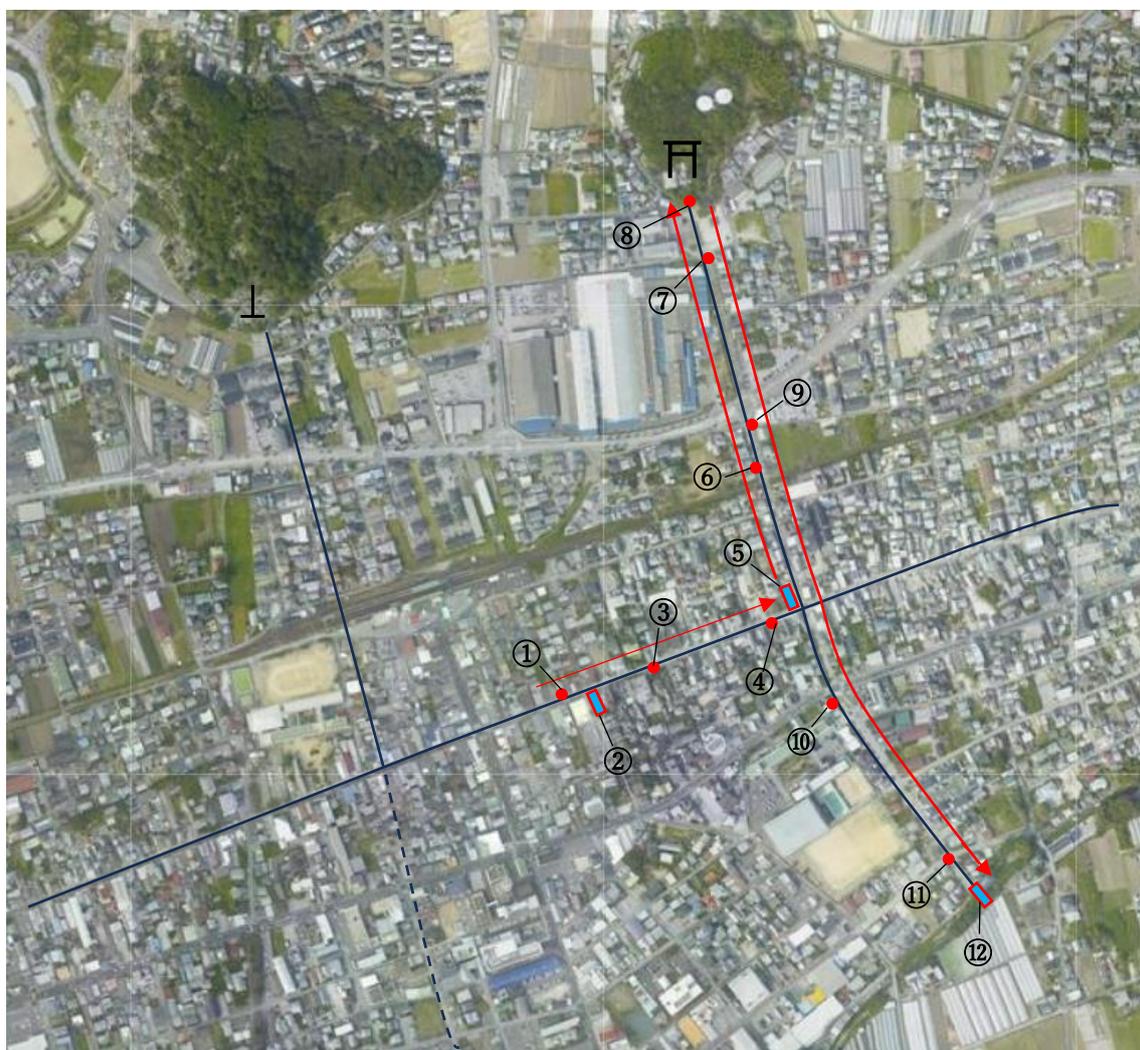


図 3-30. 順路とパース位置のプロット

町並みの中にある「住居—都市ミュージアム」の外観（パース①）



ミチから「住居—都市ミュージアム」
を見ているパースである。この小美術館
の周辺は、空地や駐車場が見られる。

図 3-31. 「住居—都市ミュージアム」の外観

→「住居—都市ミュージアム」の内観（パース②）



ミセから居間を見ているパースであ
る。居間の障子を開けるとミセからニ
ワを見通すことができる。

図 3-32. 「住居—都市ミュージアム」の内観 1



2階の物置・寝床からミチを見てい
るパースである。2階の天井は低く、
屈みながら移動する。

図 3-33. 「住居—都市ミュージアム」の内観 2



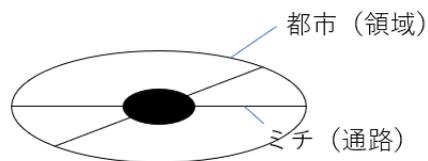
縁側からニワを見ているパー
スである。ニワの樹木によって、
住居の敷地外の雑多な風景はあ
まり見えない。

図 3-34. 「住居—都市ミュージアム」の内観 3

→ミチの風景（パース③）



図 3-35. ミチの風景

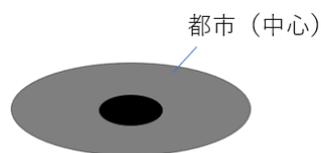


「住居—都市ミュージアム」から「都市—景観ミュージアム」へ向かう際のミチのパスである。伝統的な民家はほとんど見られない。

→町並みの中にある「都市—景観ミュージアム」の外観（パース④）



図 3-36. 「都市—景観ミュージアム」の外観

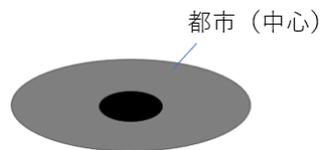


ミチから「都市—景観ミュージアム」を見ているパスである。ニワの部分が RC 造の壁面で覆われている

→「都市—景観ミュージアム」の内観（パース⑤）



図 3-37. 「都市—景観ミュージアム」の内観 1



ミセからボイド化したオモヤ、ウチニワを見ているパスである。ウチニワのイノリミチ側の壁面から光が漏れている。

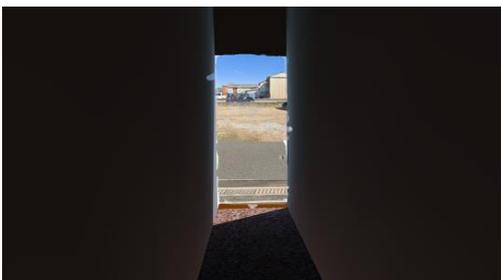


図 3-38. 「都市—景観ミュージアム」の内観 2

ウチニワの直角に曲がる通路からイノリミチを見ているパスである。イノリミチの先には雑多な風景が広がっている。

→イノリミチ（神社へ向かう）の風景（パース⑥、⑦）



⑥

図 3-39. イノリミチの風景 1



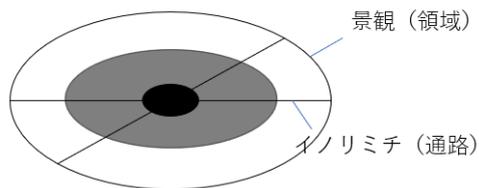
⑦

図 3-40. イノリミチの風景 2

→神社から空へ広がる風景（パース⑧）

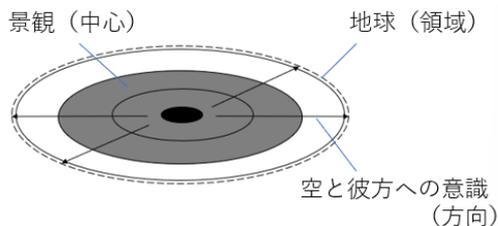


図 3-41. 八王子宮と空の風景



「都市—景観ミュージアム」から八王子宮へ向かう際のイノリミチを見ているパースである。交通量の多いあけぼのの街道がイノリミチを横切っている。

イノリミチから八王子宮のある小丘陵を見ているパースである。このパースからは見られないが、小丘陵の麓近くまで住宅が建ち並んでいる。

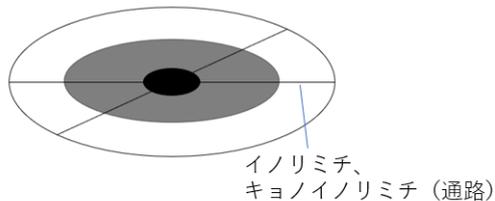


イノリミチの階段から八王子宮を見上げているパースである。八王子宮の先には空が広がっている。

→イノリミチ（神社から出る）の風景（パース⑨）

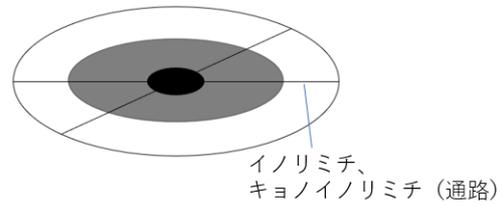


図 3-42. イノリミチの風景 3



八王子宮から「景観—地球ミュージアム」へ向かう際のイノリミチを見ているパースである。線路がイノリミチを横切っている。

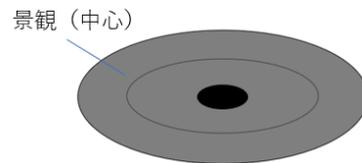
→キョノイノリミチ（「景観—地球ミュージアム」へ向かう）の風景（パース⑩）



八王子宮から「景観—地球ミュージアム」へ向かう際のキョノイノリミチを見ているパースである。幅の広い道が直線的に伸びている。

図 3-43. キョノイノリミチの風景 1

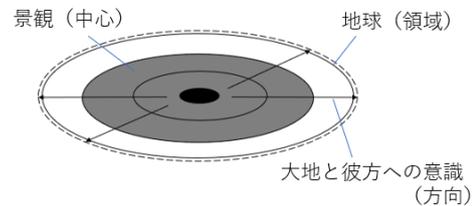
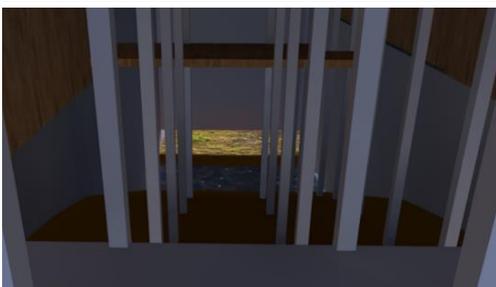
→町並みの中にある「景観—地球ミュージアム」の外観（パース⑪）



キョノイノリミチから「景観—地球ミュージアム」を見ているパースである。段丘の際まで住宅が建ち並んでいる。

図 3-44. 「景観—地球ミュージアム」の外観

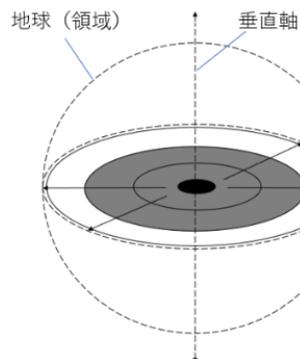
→「景観—地球ミュージアム」の内観（パース⑫）



遥拝の場からウチニワを見ているパースである。浮いている縁側、上井川とそのせせらぎ、段丘を介して大地が続いていく様子が見られる。

図 3-45. 「景観—地球ミュージアム」の内観 1

→彼方へ広がる大地



地平線が広がり、大地と彼方を想わせる風景。

図 3-46. 高知南方の地平線

3-4-2. 住居—都市ミュージアムの空間

住居—都市ミュージアムの空間について以下に示す。

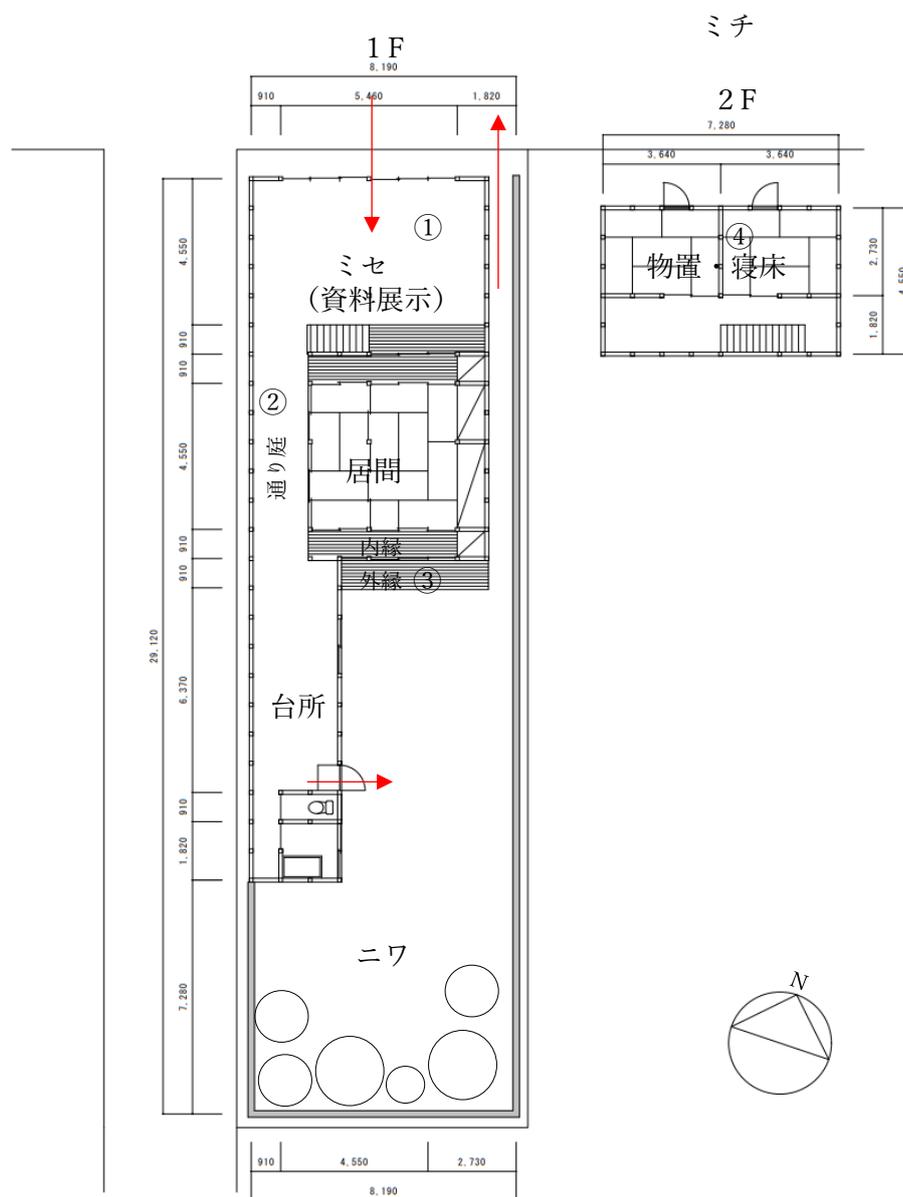


図 3-47. 「住居—都市ミュージアム」のパース位置と順路

順路：

ミチ→ミセ（資料展示）→町家（オモヤ、ミセ）の散策→ニワ→ミチ



ミセから居間を見ているパースである。居間の障子を開けるとミセからニワを見通すことができる。

図 3-48. 「住居一都市ミュージアム」のパース①



通り庭から台所を見ているパースである。通り庭が奥まで続いている。

図 3-49. 「住居一都市ミュージアム」のパース②



縁側からニワを見ているパースである。ニワの樹木によって、住居の敷地外の雑多な風景はあまり見えない。

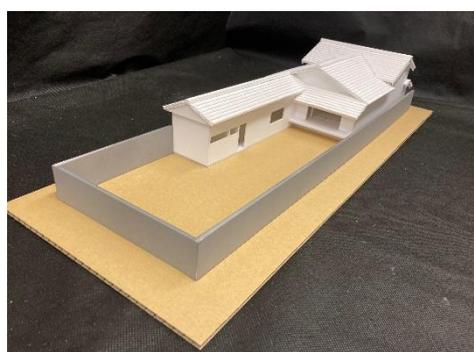
図 3-50. 「住居一都市ミュージアム」のパース③



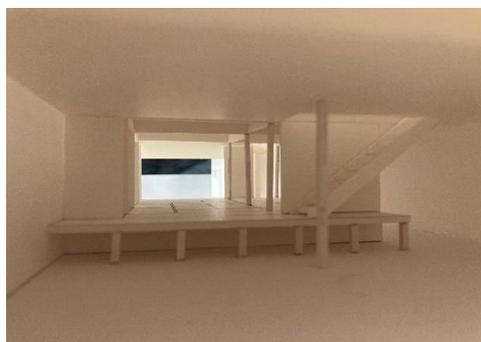
2階の物置・寝床からミチを見ているパースである。2階の天井は低く、屈みながら移動する。

図 3-51. 「住居一都市ミュージアム」のパース④

住居一都市ミュージアムの模型写真



外観



内観



構成

3-4-3. 都市一景観ミュージアムの空間

都市一景観ミュージアムの空間について以下に示す。

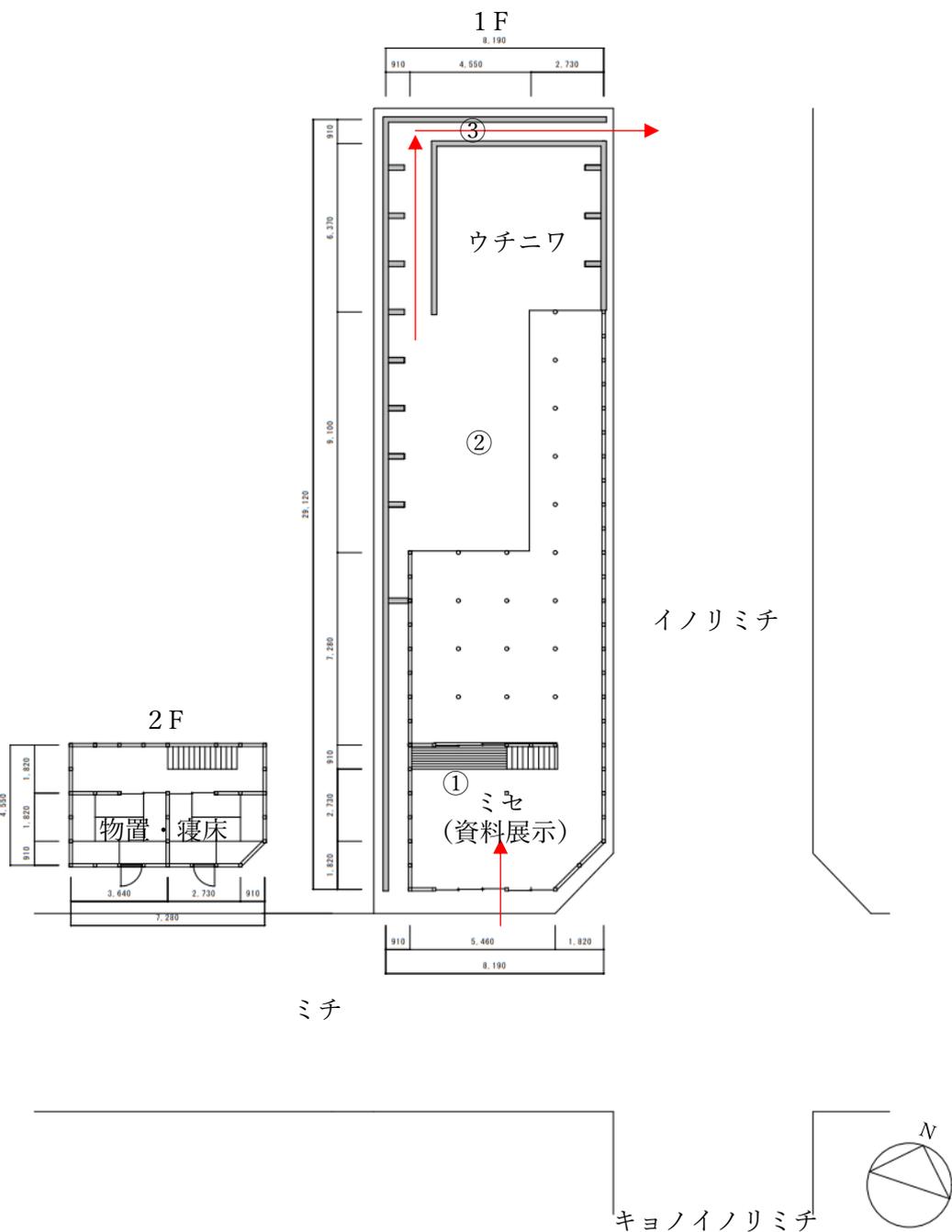


図 3-52. 「都市一景観ミュージアム」のパス位置と順路

順路：

ミチ→ミセ（資料展示）→ボイド化したオモヤ→ウチニワ→イノリミチ



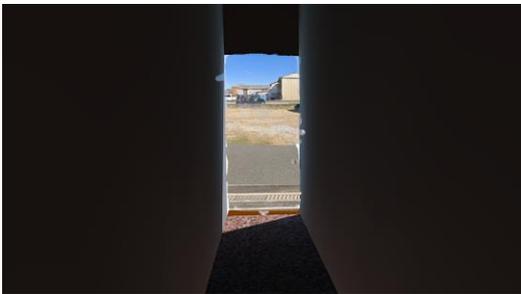
ミセからボイド化したオモヤ、ウチニワを見ているパースである。ウチニワのイノリミチ側の壁面から光が漏れている。

図 3-53. 「都市一景観ミュージアム」のパース①



ボイド化したオモヤからウチニワを見ているパースである。イノリミチ側から光が漏れ、その反対側には直角に曲がる通路の入口がある。

図 3-54. 「都市一景観ミュージアム」のパース②



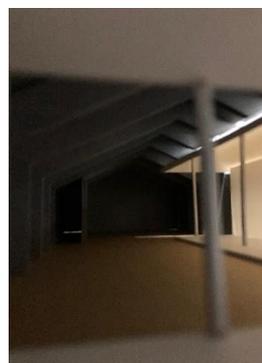
ウチニワの直角に曲がる通路からイノリミチを見ているパースである。イノリミチの先には雑多な風景が広がっている。

図 3-55. 「都市一景観ミュージアム」のパース③

都市一景観ミュージアムの模型写真



外観



内観



構成

3-4-4. 景観—地球ミュージアムの空間

景観—地球ミュージアムの空間について以下に示す。

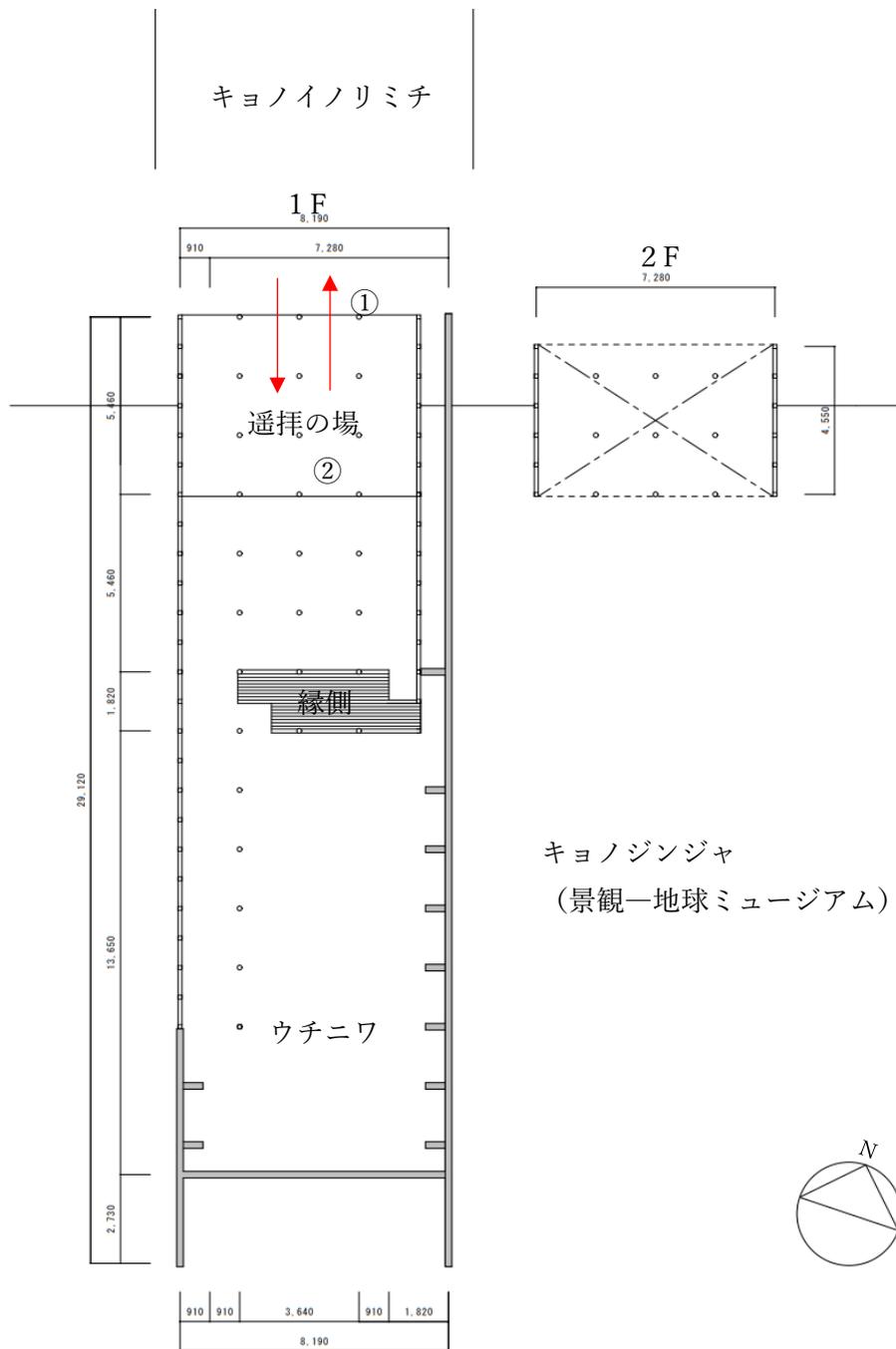
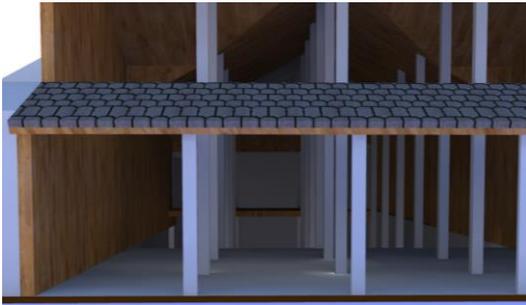


図 3-56. 「景観—地球ミュージアム」のパス位置と順路

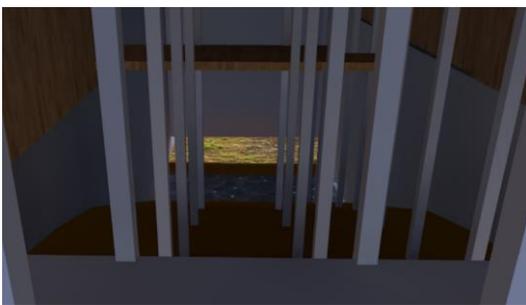
順路：

キョノイノリミチ→遥拝の場→キョノイノリミチ



キョノイノリミチから遥拝の場を介してウチニワを見ているパースである。縁側が奥に浮いている。

図 3-57. 「景観—地球ミュージアム」のパース①



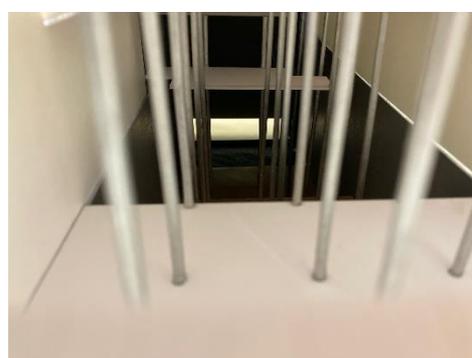
遥拝の場からウチニワを見ているパースである。浮いている縁側、上井川とそのせせらぎ、段丘を介して大地が続いていく様子が見られる。

図 3-58. 「景観—地球ミュージアム」の②

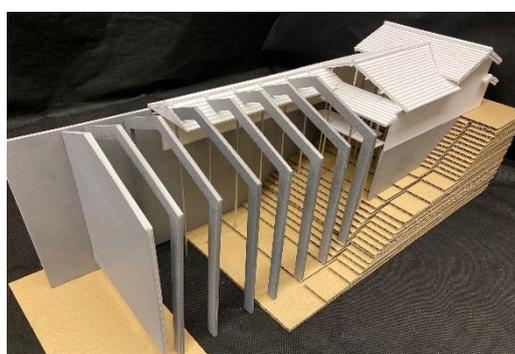
景観—地球ミュージアムの模型写真



外観



内観



構成

終章

4-1. フィールドスペシフィック・ミュージアムの意義

「人はいかに実存可能か」は、20世紀後半から継続して全世界で問い続けられているものである。建築のコンテクスチュアリズム（文脈主義）のこの流れから生じた考え方であり、地球の中で地域性を問うことは、建築にとって必要不可欠である。この流れのなか、先端的な表現としてサイトスペシフィック・アート、その流れを建築に組み込んだサイトスペシフィック・アーキテクチャがあるが、これらは人の実存を可能にする場の全体構成を見据えたものではないといえる。本設計で提示したフィールドスペシフィック・ミュージアムは、人間が実存しうる空間（実存的空間）の構成そのものをあぶり出し回復するものであり、コンテクスチュアリズムの建築の設計手法として、今後取り組まれていくべきものであろう。その先がけを示したことは大きな意義があるといえる。

4-2. 修士設計の成果と課題

本修士設計の成果について以下に示す。

本修士設計の目的は、フィールドスペシフィック・ミュージアムの概念の提示と設計である。概念の提示については、ノルベルク・シュルツ著「実存・空間・建築」を基に本設計におけるフィールドを定義するとともに、フィールドスペシフィック・ミュージアムの概念の提示をすることができた。設計については、土佐山田町の地域空間を包括的に扱い、フィールド構造を知覚させる美術館を設計できた。地域空間を包括的に扱う美術館の設計事例は見られないので、フィールドスペシフィック・ミュージアムの設計を示せたことは大きな成果であるといえる。

本修士設計の課題について主に2つを以下に示す。

1つ目は、土佐山田町以外の場においてフィールドスペシフィック・ミュージアムの設計を示せていないことである。フィールドスペシフィック・ミュージアムは土佐山田町でのみ成立するものとして計画していないので、他の地域空間においても成立することを検証することが必要となる。

2つ目は、美術空間のみで実存的空間の回復は困難であることである。実存的空間とは、人が生きていくための場である。美術空間は鑑賞者に実存的空間の構造を知覚させるが、実際にその場に住まい生きていくことがなければ、実存的空間を十全に回復するには至らない。対象の地域空間に実際に住まうことや、地域住民が参画できる仕組みをつくっていくことが今後計画していく上で必要である。

主要参考文献

- 実存・空間・建築（鹿島出版会 ノルベルク・シュルツ著 1987.5.1）
野中兼山、婉女そして土佐山田（南の風社 依光貫之著 2000.10）
八王子宮（八王子宮 北村友幸著 1977.3）
土佐山田町史（土佐山田教育委員会 土佐山田町史編纂委員会編 1979）
建築設計資料集成 49 美術館 2（建築資料研究社 建築思潮研究所編 2010）
アースワークの地平（鹿島出版会 ジョン・バーズレイ著 1993.7.5）
ランドアートと環境アート（ジェフリー・カストナー編 2005.1.21）
大地の芸術祭 <https://www.echigo-tsumari.jp/>
奈義町現代美術館 <https://www.town.nagi.okayama.jp/moca/>
豊島美術館 <https://benesse-artsite.jp/art/teshima-artmuseum.html>
ANDO MUSEUM <https://benesse-artsite.jp/art/ando-museum.html>

謝辞

本設計を進めるにあたりご指導いただきました、渡辺菊真准教授、高野洋平特任教授、木多彩子教授に深く感謝申し上げます。

本設計を含め、これまでの学生生活は多くの先輩、同輩、後輩に支えられてのものであったこと、ここに深く感謝します。

最後に、6年間もの大学生活を支え理解を示してくれた家族に心より御礼を申し上げます。